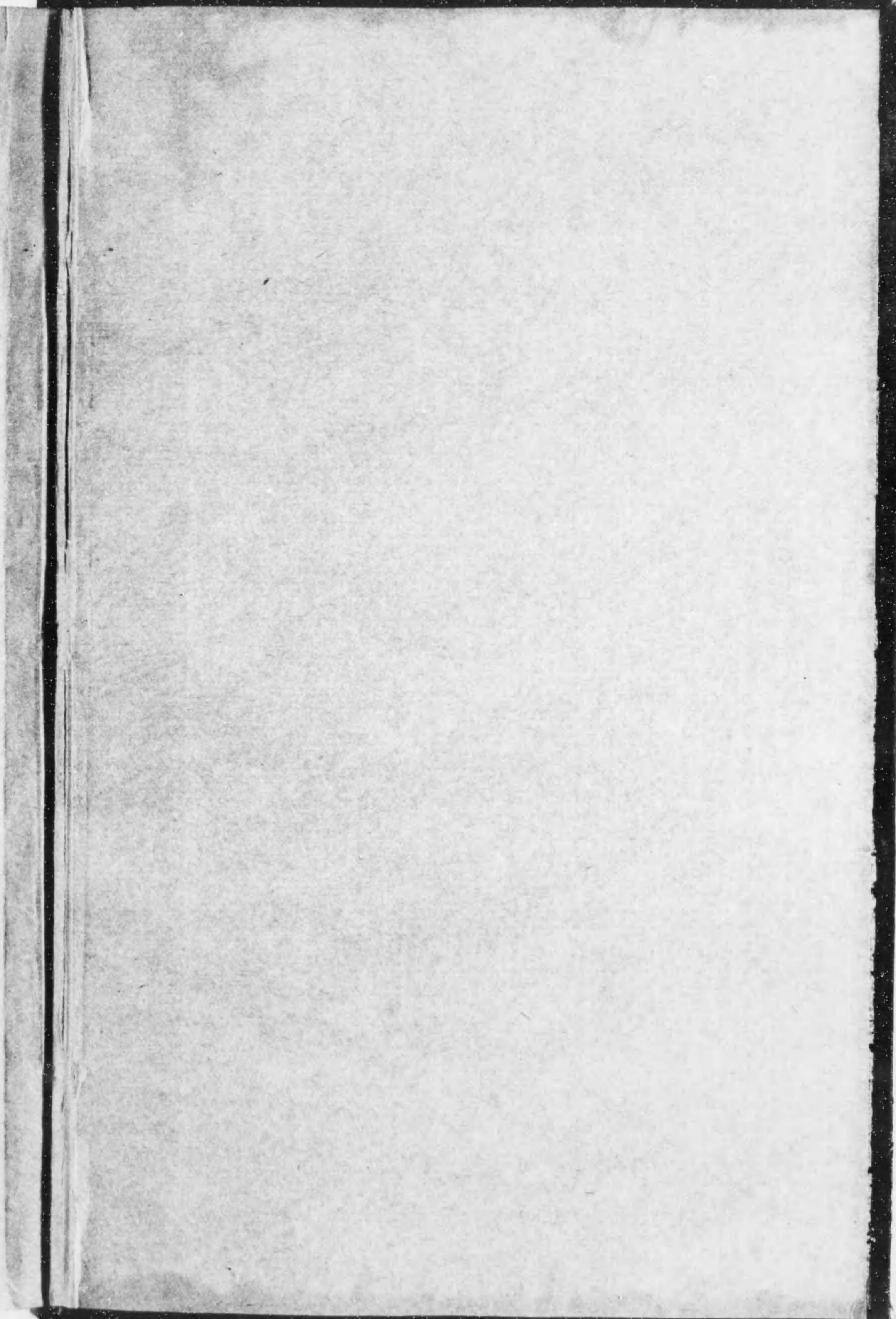
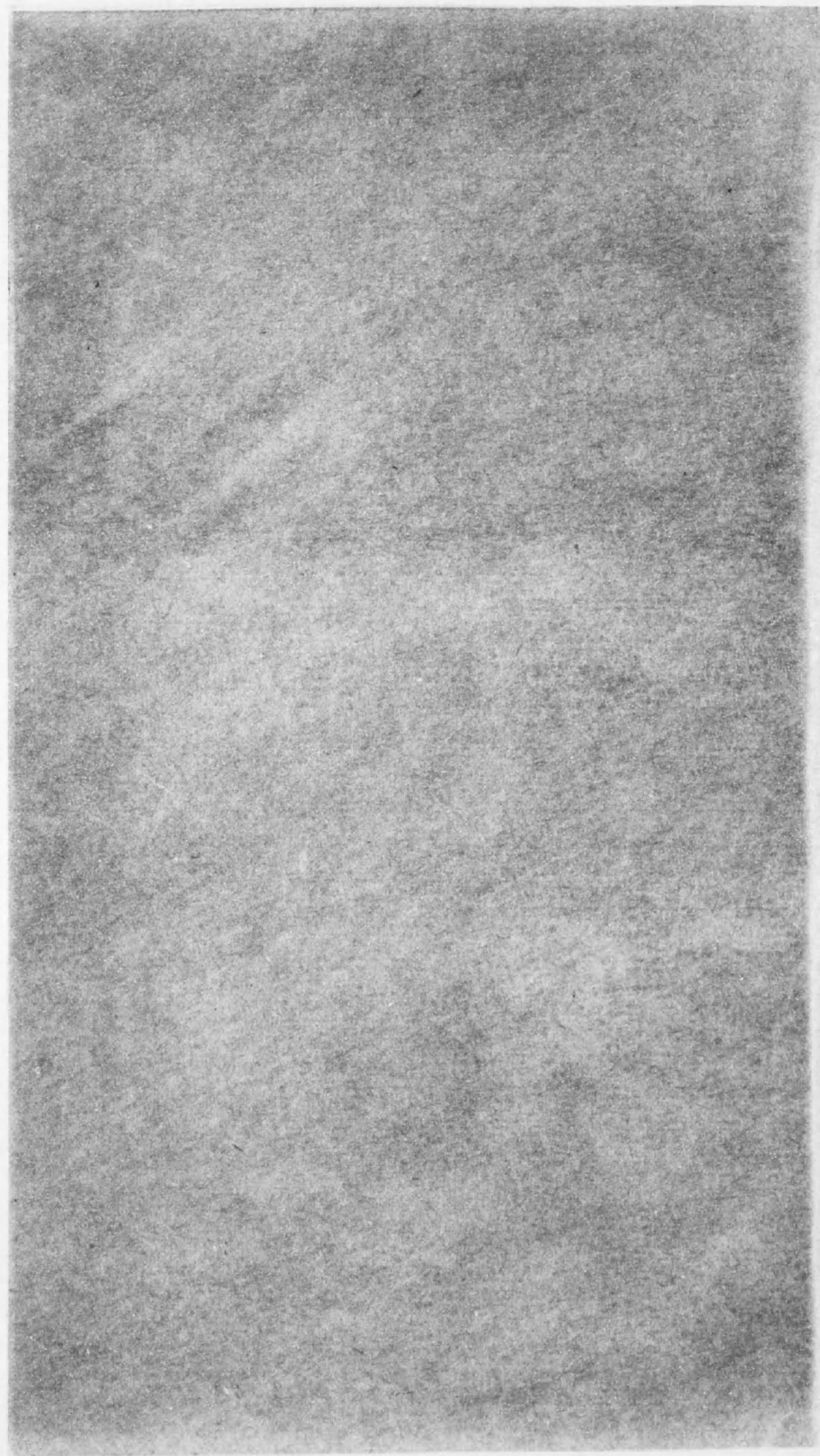


始





秘

大正十五年三月

過磷酸石灰及調合肥料ニ關スル調査

農林省農務局



過燐酸石灰ニ関スル調査

大正
15. 9. 17
内交

過磷酸石灰ニ関スル調査

目次

一	過磷酸石灰製造沿革	一
二	過磷酸石灰ノ供給状況	一
(一)	生産	二
(二)	貿易	三
(三)	消費	五
三	過磷酸石灰ノ市價	六
	過磷酸石灰ト他肥料ノ米、雜物價平均ト、價格指數	六
	東京、大阪、神戸、各市場ニ於ケル過磷酸石灰月別市價	八
四	過磷酸石灰製造方法ノ概要	〇
五	過磷酸石灰製造ノ原料	一
(一)	磷礦石	一
イ	輸入磷礦石ノ産地	一
ロ	我國ニ於ケル磷礦石	一
ハ	内地ニ於ケル磷礦石ノ消費額	一

二	磷礦石輸入額	二七
二	磷礦石價格	二七
二	磷礦石取引方法	二七
一	硫酸	一七
1.	硫酸工業狀況	
	硫酸製造工場	
口	硫酸製造方法、概要	
八	硫化礦、種類生產及市價	
	硫化礦產出豫想高	
二	硫化礦市價	
二	硫酸、生產費	
六	過燐酸石灰製造會社、變遷	二五
七	過燐酸石灰製造工場、分布	二七
八	過燐酸石灰製造業者、現狀	二八
(一)	資本金額	二八
(二)	社債及借入金	三〇
(三)	過燐酸石灰生產能力	三一

九、過燐酸石灰生產額

一〇、過燐酸石灰製造業者、利益

過燐酸石灰製造會社、利益配當狀況
 過燐酸石灰製造會社、他、營利會社、利益配當比較表

一一、各製造業者、過燐酸石灰販賣方法

附

第一表	世界ニ於ケル磷礦石、生產額	三九
第二表	世界ニ於ケル磷礦石、輸出額	四〇
第三表	世界ニ於ケル磷礦石、輸入額	四二
第四表	世界ニ於ケル過燐酸石灰生產額	四三
第五表	世界ニ於ケル過燐酸石灰、輸出額	四五
第六表	世界ニ於ケル過燐酸石灰、輸入額	四六
第七表	過燐酸石灰ト共、原料ト、價格高低表	
第八表	過燐酸石灰製造ニ關スル一覽表	
第九表	本邦内地ニ於テ使用スル磷礦石、種類產地、產額、輸入額含有成分量一覽表	

一 過燐酸石灰製造沿革

千八百四十年農藝化學ノ鼻祖ユスツス、リビービ氏ハ「農業上ニ於ケル化學ノ應用」ナル論文ヲ公ニシテ、骨粉ニ硫酸ヲ注クコトニ依リ其ノ効果ヲ一層大ナラシムト唱導セリコレ水溶性燐酸肥料ノ初メナリ其後ヘンスロウ氏ハ燐酸石灰ニ硫酸ヲ注加スル過燐酸石灰ノ製造ヲ發案シ千八百四十三年英人ゼ、ビー、ロ、ズ、氏カ「テームス」河畔「ゴデット」アルドニ該工場ヲ設立セリ之レ過燐酸石灰製造工場ノ嚆矢トナス我國ニ於テ明治十八年頃農商務技師高峰博士米國ヨリ「チャールストン」燐酸及過燐酸石灰トヲ携ヘ帰朝シ該燐酸石灰ヲ製造ノ上有機質肥料ト配合ノ上各府縣ニテ試験セシメタル結果成績顯著ナルヲ認メ、滋澤子爵ト相謀リ東京人造肥料株式會社ヲ起シ明治二十年釜屋堀ニ工場ヲ設置シ翌二十一年ヨリ過燐酸石灰ノ製造ヲ開始セリコレ我國ニ於ケル過燐酸石灰製造ノ嚆矢トス

コレト前後シテ兵庫縣多木久米次郎氏及大阪アルカリ株式會社モ之カ製造ヲ開始セリ降リテ明治二十七八年戰役ニ際シ滿州産大豆粕ノ輸入困難トナルニ及ビ戰時好景氣ニ依リ大阪硫曾株式會社ノ創立ト他會社ノ工場擴張トナリテ日露戰役トナリテ更ニ九會社ノ設立ヲ見タリ其ノ後會社ノ工場ノ設立、合併等數多、交連ヲ望ネ今日ニ於テハ十二社二十三工場ヲ養スルニ到レリ



一 生産
二 過燐酸石灰需給狀況

過磷酸石灰ノ生産額ハ年ニ依リ多少ノ消長アルヲ免レスト雖モ逐年増加ノ趨勢ヲ
 辿リツ・アリ即チ最近一ヶ年ノ生産額ハ五十六万四千噸其ノ價格千九百七十七萬
 圓ニシテ販賣肥料生産總額ノ一割四分強ニ相當シコレヲ明治三十六年ノ生産額九
 万噸ニ比スルトキハ約六倍ニ分ノ増加ヲ示シ大正元年ノ生産額四十四万一千噸ニ
 比スルモニ割七分ノ増加ヲ示セリ而シテ之カ品質ノ推移ニ付テ觀察スルニ過磷
 酸石灰製造ノ初期ニ於テハ主トシテ低度過磷酸アリシモ格安ナル高度過磷酸ノ需
 要増加スルニ從ヒ之カ生産額モ漸次増加シ現今ニ於テハ各相半ハスルニ到レリ
 過磷酸石灰ノ生産額左ノ如シ

過磷酸石灰生産額

年次	數量	價格	增加指數	對前年增加率
昭和三年平均	五六四	一九七七	四四一	一四二
昭和二年	五九三	二二三二	四六三	一四九
昭和一年	五〇六	一九一五	二九五	一三八
大正六年	五九四	一七八五	四六四	一四一
大正五年	五一六	二四六一	四〇三	二二〇
大正四年	四五七	一一一四	三五七	二二〇
大正三年	二七六	七八七	二一五	一一二
大正二年	一八八	四一五	一〇〇	一七八
大正一年	一五五	六一一	—	—

最近ニ於ケル各製造者別ノ過磷酸石灰生産額左ノ如シ

會社別過磷酸石灰生産額

大正十一年	大正十二年	大正十三年	會社及工場名
五、六六九、二二八	一九三、五一七、七	六七、八四六、三六三	大日本人造肥料株式會社
一、二七七、九四一八	四七、八六三、〇	一七、七二〇、二六九	株式會社多不製肥所
一〇、八一〇、五六〇	四〇、四八八、二	一八、六七八、五五〇	株式會社住友製肥所
二〇、〇一〇、六〇二	七四、九四六、一	二〇、九三一、六五七	ラ甘島燐礦株式會社
六、〇九三、一六七	二二、八二〇、八	八、六七三、五〇	神島人造肥料株式會社
一、三一七、七九六	四、九四三、〇	一、六二二、五〇四	日本硫酸株式會社
一、六九四、九九五	六、三四八、三	一、五九五、二一〇	新浮硫酸株式會社
四、六七一、三三七	一七、四九五、六	四、四六四、四一二	北陸人造肥料株式會社
四、三二五、一八八	一六、一九九、二	三、一二〇、三〇二	大阪アルカリ株式會社
四、二四四、七二八	一五、八九七、九	五、九四五、八九一	日本硫酸株式會社
五、二六二、〇三二	一九、七〇八、〇	七、〇七三、七六七	帝國人造肥料株式會社
一三五、一九九、三四四	五〇六、三六四、六	五八、二一八、二六五	株式會社アノ製肥所

輸入、歐州大戰當時、好況時ニ於テ一時過燐酸ノ輸入ヲ見タルモ其ノ後輸入セラ
ル、コトナシ

輸出、内地ニ於ケル過燐酸石灰ノ生産過剩ニ依リ人造肥料聯合會ハ輸出奨励金ト
シテ大正十四年ヨリ一以十銭宛ヲ交附シ海外ノ市場開拓ニ努力シツ、アリ其ノ
結果大正十四年上半期ニ於テハ既ニ前年全期ノ輸出額ヲ凌駕スルニ到レリ

年次	数量	價格	備考
大正十一年	三五八、一六〇	八四、二六〇	
〃 十二年	二四一、七四八	四九、八九一	
〃 十三年	四五、六八〇	一〇、九九一	
大正十四年上半期	四三、六八八	一二、八八九	

移出、台湾ニ於ケル肥料需要ノ増加ニ伴ヒ過燐酸石灰ノ移出ハ逐年増加シ最近一
ケ年ノ移出額ハ一萬八千三百噸價格九十七萬七千圓ニ達セリ

年次	数量	價格	増加指數
大正十年	三、三九五、五六	七二七、二〇〇	一〇〇
〃 十一年	三、四五〇、二五一	七六四、六八八	一〇二
〃 十二年	四、〇八四、三七〇	七七九、九二一	一二〇
〃 十三年	七、二六七、九一二	一、三八六、九二〇	二一三

朝鮮へノ移出額ハ統計ノ詳カナルモノナキヲ以テ之ヲ知ルヲ得スト雖モ年次肥料
ノ需要ハ増加シ之ニ伴ヒ過燐酸ノ需要モ亦増加シツ、アルモノト見ルヲ得ヘシ

三、消費

内地ニ於ケル生産額ニ輪移出額ヲ控除シタル残額ヲ以テ消費額ト見做ストキハ最
近一ケ年ノ消費額ハ五十二萬三千噸其價格千八百七十四萬圓ニシテ販賣肥料消費
額ノ七〇% 余ニ相當ス而シテ明治三十六年ノ消費額八萬三千噸ヲ一〇〇%トシテ其ノ
増加率ヲ見ルトキハ大正元年ニ於テハ五〇%トナリ大正十三年ニ於テハ六四%ノ
激増ヲ示セリ

過燐酸石灰ノ消費中ニハ之ヲ直接ニ肥料トスルモノト配合肥料製造ノ原料トスル
モノトアリ而シテ後者最近一ケ年ノ消費高ハ十六萬噸ニシテ過燐酸石灰總消費額
ノ三割三分強ニ相當ス

過燐酸石灰消費額

年次	数量	價格	増加指數
大正一	四二二	一、〇八四	一〇〇
〃 二	四八五	二、二二四	一一五
〃 三	五六三	二、〇一六	一一三
〃 四	四六八	一、八三二	一一一
〃 五	五七二	二、〇四三	一一三
〃 六	五三四	一、九六四	一一一
最近五年平均			一一七

三、過燐酸石灰ノ市價

過燐酸石灰ノ價格ハ諸種ノ事情ニ依リテ左右セラル、モノニシテ必スシモ米價ノ騰落ト正比例スルモノニアラス、今大正元年ヨリ大正十四年ニ至ル十四ヶ年間ニ於ケル米價ト過燐酸石灰トノ價格ヲ比較對照センニ米價ニ比シ過燐酸石灰ノ價格最モ高價ナリシハ大正五年四月ニシテ米一石ニ對スル過燐酸石灰九、九六以共、最モ低廉ナリシハ大正十四年五月ノ二、六五五以ニシテ其ノ間穴ニ約三倍ノ差額ヲ見ル更ニ一ヶ年間ニ於テ最モ高低ノ甚シカリシハ大正十三年ニシテ米一石ニ對スル過燐酸、最高最低ノ差ハ六、五八以ニシテ相當大ナル差額ヲ有セリ、而シテ過燐酸石灰（水溶燐酸五%）ノ價格ハ大正元年ニ於テ九十五錢ナリシモ大正十四年ニ於テハ一円六十錢ヨリ一円八十錢ノ間ヲ上下セリ、
過燐酸石灰ヲ他ノ諸肥料米及諸物價平均等ト比較スル其騰貴率ハ硫酸「アンモニア」ニ次クノ低位ニアルコト別表ノ如シ

過燐酸石灰ト他肥料、米、諸物價平均トノ價格指數

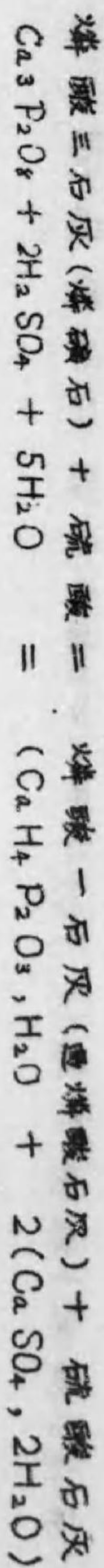
年次	過燐酸石灰	大豆油粕	硫酸安世尼豆	綠榨粕	米	諸物價平均 (五十六種)
明治	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
三三	119.6	82.5	118.4	70.1	73.1	76.2
三六	117.6	84.6	116.7	68.6	74.5	76.9
三七	117.6	110.5	113.0	87.0	77.9	86.0

年次	過燐酸石灰	大豆油粕	硫酸安世尼豆	綠榨粕	米	諸物價平均 (五十六種)
三三	119.4	107.7	115.2	94.9	75.8	92.4
三九	120.6	106.3	96.4	94.6	86.3	95.9
四〇	107.8	114.7	91.0	104.5	96.7	102.5
四一	102.9	97.2	95.9	90.6	84.6	98.8
四二	102.0	82.5	96.2	83.5	77.9	94.2
四三	101.0	97.2	94.9	88.7	77.9	95.5
四四	100.0	95.1	106.6	98.7	78.6	99.0
大正	93.1	107.0	109.3	109.6	102.3	104.8
一	91.2	107.7	106.4	106.8	122.5	105.0
二	112.0	106.3	96.8	93.2	95.3	100.2
三	118.6	88.1	109.6	84.0	77.2	101.4
四	118.6	100.0	138.3	94.0	81.4	112.7
五	142.2	135.7	113.7	122.9	116.2	155.8
六	177.4	170.6	269.4	167.9	192.1	197.1
七	177.4	224.5	235.1	232.2	271.5	247.5
八	235.3	255.2	193.2	229.7	262.6	272.4
九	236.5	255.2	193.2	229.7	262.6	272.4
一〇	157.8	156.6	109.6	166.0	182.0	210.4
一一	150.0	162.2	124.6	185.9	193.0	205.6
一二	157.8	153.8	136.3	195.3	227.6	209.1
一三	166.7	176.9	118.1	177.8	227.6	216.8
以上三ヶ年平均	158.2	164.3	126.3	186.3	209.4	210.5
以上五ヶ年平均	192.1	181.1	136.3	191.0	214.6	222.9

十四年	十三年	十二年	十一年	十年	九年	八年	七年	六年	五年	四年	三年
一四一〇	一五二〇	一三六〇	一四八〇	一三八〇	五二八〇	一六八〇	一五一六	九七〇	八五六	七〇〇	八二五
一四一〇	一五二〇	一四〇〇	一四九〇	一三三〇	四九二〇	一六六〇	一六三〇	九七〇	八八七	七五〇	八二五
一三七〇	一五五〇	一四四〇	一五〇〇	一三八〇	四六二〇	一六八〇	一七一〇	九八〇	九〇〇	八二五	八二五
一三七〇	一五七〇	一四六〇	一五九〇	一四二〇	三三六〇	一六六〇	一六九〇	九八〇	九七五	九〇〇	八二五
一三七〇	一五八〇	一五五〇	一三三〇	一四六〇	三二五〇	一五七〇	一六九〇	一〇二〇	一〇二五	八五〇	八二五
一四〇〇	一五三〇	一四八〇	一三六〇	一五六〇	二五六〇	一六六〇	一六七〇	一一二〇	九七五	八二五	八二五
一五二〇	一四四〇	一四〇〇	一四九〇	一五四〇	二二五〇	一八五〇	一六一〇	一一五〇	九七五	八二五	八二五
一五五〇	一四六〇	一四〇〇	一四〇〇	一六二〇	二二六〇	二二七〇	一五二〇	一六四〇	九七五	八二五	八〇〇
一五七〇	一四九〇	一五六〇	一三二〇	一六四〇	一九八〇	二五〇〇	一七三〇	一七一〇	一〇五〇	七九五	八〇〇
一六〇〇	一四五〇	一五六〇	一三八〇	一六六〇	一七四〇	二八七〇	一六一〇	一五〇〇	一〇五〇	七九五	七五〇
一四一〇	一四二〇	一四七〇	一〇六〇	一六六〇	一六〇〇	三二七〇	一六三〇	一五三〇	一一二五	七九五	七五〇
一四一〇	一四一〇	一四一〇	一三〇〇	一五〇〇	一三一〇	四三四〇	一六九〇	一四七〇	一一二五	七九五	六七五

四 過磷酸石灰製造方法ノ概要

燐礦石中ニ含有スル燐酸ハ不溶解態(燐酸三石灰 $\text{Ca}_3\text{P}_2\text{O}_8$)ニシテ植物ニ吸收利用セラル、コト極メテ微々タルモノナレバ之カ肥効ヲ増進センニハ之ヲ可溶性ノ燐酸(燐酸一石灰 $\text{CaH}_4\text{P}_2\text{O}_8$)ニ變化セシムルヲ要ス之カ手段トシテハ燐礦石ニ酸ヲ注加スルニアリ



先ツ燐礦石ヲ粉末トナシ之ニ鉛室硫酸(ボーノ一五ニ一五四度)ノ適當量ヲ混和器中ニテ加ヘ數分間攪拌シテ化成室ニ落シ一昼夜内外密閉シ置キ硫酸ノ作用ヲ完カラシメ然ル後之ヲ取出シ截斷堆積乾燥等ノ操作ヲ經テ製造ヲ完成スルモノトス
原料ノ使用ト生産歩合ハ原料タル燐礦石ノ品質、硫酸ノ濃度等ニ依リ差異スルモ過磷酸石灰十貫ヲ生産スルニ要スル原料ハ燐礦石五貫六七百、硫酸約六貫トス

五 過磷酸石灰製造ノ原料

(一) 燐 礦 石

燐酸肥料ノ製造原料タルヘキモノ稀レナリトモ現在ニ於テ價格低廉ニシテ而モ供給ノ豊富ナルモノハ蓋シ燐礦石ノ右ニ出ツルモノナシ 凡ソ燐酸肥料ノ給源ハ燐酸化化合物ニ仰キ窒素肥料ノ如ク大氣中無尽ニ包藏スル窒素ヲ利用シ得ルモノトハ自ラ其ノ趣ヲ異ニス現在豊富ニ供給シ得ラル、燐礦石モ無尽ニ供給ヲ持續シ得ラルヘキモノニアラサルヲ論ナク將來ニ於テハ燐酸問題ノ解決ニ腐心セラルヘキ時期アルヘシ

(二) 輸入燐礦石ノ產地

燐酸分ヲ含有スル燐石ハ世界何レニモ分布セサル所ナリト雖モ燐酸分ノ含量多ク鉄其他ノ夾雜物ノ含量少ク過磷酸石灰製造ノ原料トシテノ良質ノモノハ多シトセス

而シテ右ノ内我國へ輸入スル燐礦石ノ產地ヲ示セハ左ノ如シ

産地名	所属國名	所在地	産量
オースティン島	英國	大平洋赤道直下オースティン島	南緯一六九度
クリスマス島	〃	東甲度洋東北部クリスマス島	東緯一〇五五度
アンガウル島	日本	北大平洋アンガウル島	北緯一三四度
マカテア島	佛蘭西	大平洋中央部マカテア島	南緯一四八二度
エジプト(コシア)	埃及	亞弗利加州東北部埃及國	北緯二九度
フロリダ	北米合衆國	合衆國フロリダ州	北緯二九度
ガフサ	佛蘭西	亞弗利加州北部ガフサ	北緯三〇九度
アルゼリア	〃	アルゼリア	北緯三七三度
海州	中華民國	中華民國江蘇省東北部	北緯三二四度
ラサ	日本	沖縄縣東大島	北緯二四度

ロ 我國ニ於ケル燐礦石
内地ニ於ケル燐礦石ノ發見ニシカラス明治二十七年土性調査ノ際宮崎縣下ニ發見セラレタルヲ嚙矢トシ其後石川、長野、埼玉、青森、静岡、福岡、茨城、千葉、山梨、岐阜、三重、愛媛、大分、諸縣ニ發見セラレタリ然レトモ何レモ燐酸含量

ニ乏シク往々良質ノ燐礦ヲ發見スルモ位置少シク衰スレハ種々惡質トナリ品質一定セルモノ少ク過燐酸石灰ノ原料トシテノ使用ニ堪ハス只僅ニ能登、及ラサ島ハ稍々良質ノモノヲ産ス然レトモ能登ハ蓄積量豊富ナラス只ラサ島ハ最近大井上商工技師ノ調査ニ依レハ二百二十七噸ノ蓄積量ヲ有シ年々五六噸ノ採掘ヲナスモ三十四年ノ將來ヲ有スルモノト推算スルコトヲ得ヘシ
以上ノ外日獨領ニシテ我國ノ委任統治トナレル「アンガウル」島ヨリ産スル燐礦石ハ良質ノモノニシテ埋藏量モ二百五十噸内外ト稱セラレ年々六萬噸ヲ輸入シ人造肥料聯合會ニ依リ各會社ニ配分シツ、アリ而シテ全島採掘ハ年額六萬噸内外ト限定セラレ居ルヲ以テ現在ノ採掘量ヲ以テスレハ全島モラサ島ト合シテ約四十年ノ將來ヲ有スルモノト云フヲ得ヘシ

ハ 内地ニ於ケル燐礦石ノ消費額
内地ニ於ケル燐礦石ノ最近一ケ年消費額ハ之ヲ過燐酸石灰ノ生産額ヨリ推算スルトキハ三十三萬八千五百四十噸ニシテ内地ノ生産額六七萬噸ヲ除キ他ハ海外ヨリ輸入ニ俟ツモノトス即チ左ノ如シ

燐礦石輸入額

(單位噸)

年次	種類	オースティン	クリスマス	アンガウル	マカテア	エジプト	フロリダ	ガフサ	アルゼリア	海州	其他	計
大正一		九〇、五二四	五、六六四	九、六二〇	一	四二、八二九	八、〇一五	五二、四九一	一	一	一	一九九、二八〇、四四五

二	九六八八八	九、五三四	二九、七二六	一〇、五三九	四七、四七〇	六四、八二八	六一、五七八	七〇、二五	一	三二、七八八
三	六〇、四六一	一四、九二四	二二、二〇六	一一、九四九	七、〇四七	五四、〇六三	三七、九八七	一〇、〇五五	一	一九、二八二
四	七〇、一二七	一	四三、三三二	一五、四二四	六、一八四	一	一	二八、三四〇	一	二八、三四〇
五	六二、五六〇	九、四三八	三一、九一九	一〇、三三三	一	一	一	一	一	一
六	五七、七五八	五八、〇〇九	四三、三七六	一	一	一	一	一	一	一
七	六、八五四	五九、二九六	四八、三七七	一	一	一	一	一	一	一
八	五五、一〇八	四三、八〇〇	七三、七三九	一	一	一	一	一	一	一
九	八八、三九八	三二、一四二	五二、九五五	一	三三、九七〇	四二、一八六	一	一	一	一
一〇	六九、四八七	二九、九四一	六二、四四三	一	一	一	一	一	一	一
一一	八〇、四一四	五五、八八三	四四、五三七	一	一九、五〇〇	二〇、一四三	二五、四七九	一	一	一
一二	二五、八五五	五三、九〇〇	六一、三四〇	一	一、五一二	一五、〇六四	一	一	一	一
一三	五七、五三七	七八、一七八	六〇、四二九	一	四六、四七八	二四、四二〇	三一、六五五	二、三四九	一	一

(二) 燐礦石ノ價格

燐礦石ノ騰落ハ世界的需給關係ニ因スヘシト雖モ生産過剩ノ現状ニアリテハ需給關係ハ大ナル因ヲ爲スヘキモノニアラスシテ寧口備船運賃及英米爲替ノ關係ニ基因スルコト大ナルモノト云フヲ得シ例令大正十三年一月ニ於ケル五、七千噸型備船料ハ三月ノ高値ニシテ移輸入ニ不利ナリシモ對英爲替ハ $\frac{1}{10}$ 對米爲替ハ $\frac{1}{10}$ ナリ

燐礦石價格 (低度)

大正	年	月	價	指	數	大正	年	月	價	指	數
三	二	五	一四、五〇	一〇〇	七二	七	一	四	五二、〇〇	二五九	一五九
三	二	八	一〇、五〇	七二	八	一	一	四	四七、〇〇	五三四	一三一
三	二	一	一四、五〇	一〇〇	七二	一	一	五	一九、〇〇	一八〇	一三一
三	二	一	一六、五〇	一一四	一一	一	一	一	一一、一一	一三四	一三一
三	二	一	一五、〇〇	一〇三	九	一	一	一	二〇、五〇	一四一	一三一
三	二	四	一九、五〇	一三四	一三	一	一	一	一九、〇〇	一三一	一三一
三	二	五	一九、五〇	一三四	一三	一	一	一	二一、〇〇	一四一	一三一
三	二	六	一九、〇〇	一三一	一	一	一	一	二一、〇〇	一四一	一三一
三	二	九	四一、〇〇	二八五	一九三	一	一	一	二一、〇〇	一四一	一三一
三	二	四	四一、〇〇	二八五	一九三	一	一	一	二一、〇〇	一四一	一三一
三	二	七	五二、五〇	三九〇	二八五	一	一	一	二一、〇〇	一四一	一三一
三	二	一〇	五二、五〇	三九〇	二八五	一	一	一	二一、〇〇	一四一	一三一

保ヲ相當緩和セラル 其後海運界ノ不況ニ伴ヒ備船料ハ二月五十鐵ト低落シタルモ英米爲替ハ三月ニ入り依然低落四月五月モ亦漸落シ遂ニ對英爲替ハ $\frac{1}{10}$ 對米爲替ハ $\frac{1}{10}$ ヲ現出シ爲ノニ高度低度共ニ三圍ノ高値ヲ示セリ然ルニ六月ニ入り英米爲替ハ稍々恢復シ備船料ハ依然低落歩調ヲ述レルカ爲ノ燐礦石ノ價格ハ三、四圓方下落ヲ来セリ十月ニ至リテハ爲替關係々不味ヲ見セ圓余ノ騰貴ヲ示セリ斯ノ如ク燐礦石ノ價格ハ主トシテ對英米爲替、備船料等ニ依リテ左右セラル、モノナルカ故ニ從テ輸入セラルヘキ燐礦石ノ種類モ是等ノ事情ニ依リ一定セサルハ勿論ナリ

燐 礫 石 ノ 種 類		取 扱 業 者
クリスマス		増田屋合資會社
マカテア		株式會社鈴木商店
フロリダ、コシア、サアアジア、オーシヤン		三井物産株式會社
		三菱商事株式會社
		久原商事株式會社
		株式會社鈴木商店
ガフサ		サミエル、サミエル商會
ラサ		株式會社高田商會
海州		森格

ホ 燐 礫 石 取 引 方 法

過燐酸石灰製造業者ノ燐礫石購入ハ直接産地ヨリ購入スルニアラスシテ内地輸入業者ノ手ヲ經テ購入スルモノトス 今主ナル輸入業者ヲ例記ハ右記ノ如シ
 是等輸入業者ハ社文アル毎ニ倫敦市場又ハ産地ニ於テ買付ヲ爲シ普通着港本船渡ヲ以テ需要者ニ引渡シヲ爲スモノトス輸入者及需要者間ノ主ナル取引條件トシテ
 ハ 水分
 一 通例五%以上ノ物ニ對シテハ乾燥費トシテ一%ニ對シニ十五銭乃至三十銭ノ割

合ニテ値引ス

ニ 鉄 礫 土

鉄、礫土ノ含量ハ製造ノ難易、成品ノ品質ニ關係ヲ有スルコト大ナルヲ以テ之カ含量五%以上ノ物ニアリテハ殆ント使用困難トセラル、通常鉄礫土ノ量ハ無水物中三%以下ニ限定シ之ヨリ超過スルトキハ超過シタル一%毎ニ燐酸三石灰二%ノ割合ニテ値引ヲ爲ス

三、プロラタ

買取現物成分カ契約標準成分ニ對シ超過又ハ不足スルトキハ之ニ正比例シテ契約單價ヨリ仕切値段ヲ算出スルモノナリ コノ場合上下プロラタ即チ買取現物成分カ契約標準成分ニ比シ過不足ヲ生シタルトキ其ノ過不足各々適用スルモノト下プロラタ即チ右不足ノ場合ニミニ適用スルモノナリ
 四 代金支拂ハ受渡後六十日目拂ヲ普通トシ日歩引現金拂ヲ爲ス場合モアリ又ハ九%現金拂トシ残余ハ成分決定後ニ於テ決済ヲナスコトモアリ是等ハ取組先トノ關係ニ依リ一定セサルカ如シ

二、硫 酸

硫酸ハ染料、爆発物、一般酸類、硫酸塩類ノ製造、礦油ノ精製等ニ使用セラレ工業藥品トシテ尤モ重要ナルモノナリ就中過燐酸、硫酸安母尼亞等ノ化學肥料製造上又クヘカラサルモノニシテ之ニ使用セララル、硫酸ノ量ハ莫大ナリ我國ニ於テ

生産セラル、硫酸ノ約七割ハ肥料製造ニ消費セラル從テ過燐酸製造者ハ硫酸製造ヲ兼營シ固定資本ノ二分ノ一乃至三分ノ一ハ硫酸製造ノ設備ニ充當セラルト云フ

(イ) 硫酸工業ノ状況

内地ニ於ケル主ナル硫酸製造所ハ次ノ如ク四十二ノ工場數ト鉛室八十四組塔式一九組接觸式五組ヲ有シ其ノ硫酸日産能力ハ實ニ三千二百五十噸ト推算セラル

硫酸製造工場

地方名	會社名	所在地	鉛室	塔式	接觸	日産能力
北海道	大日本人造肥料株式会社	函館	1	1		12,000
福島	高田鑛業株式会社	大寺	1			4,000
東京	大日本人造肥料株式会社	小松川	3	1		34,000
全	全	木下川	3			23,000
全	全	王子	4	1		80,000
全	全	大島	3			23,000
全	全	全	1			3,000
全	全	全	1			11,000
全	全	全	2			20,000
全	全	全	1			20,000
新	新	新	1			20,000

地方名	會社名	所在地	鉛室	塔式	接觸	日産能力
新	日本硫酸會社	新	2	1		12,000
全	電氣化學工業株式会社	青	1	1		24,000
全	北越水力電氣株式会社	城	1			6,000
全	電氣化學工業株式会社	伏	1			6,500
全	北陸人造肥料株式会社	全	1			12,000
石	大日本人造肥料株式会社	七	2			14,500
福	大同肥料株式会社	武	1			5,000
愛	大日本人造肥料株式会社	名古屋	1			16,000
大	全	大	2			13,000
全	全	大	2			21,000
全	全	大	2			21,000
全	大阪アルカリ株式会社	木	2			20,000
全	大阪製鍊株式会社	大	4			28,000
全	ラサ島燐礦株式会社	全	2			17,000
全	伊藤硫酸會社	神	7			52,000
全	帝國人造肥料株式会社	干	1			11,400
全	日本染料株式会社	木	2			18,000
全	和歌山	和	1			4,000
兵	和歌山	和	2			18,000

岡山	大日本人造肥料株式会社	小	一	一九、五〇〇
全	神島人造肥料株式会社	神島	二	一七、〇〇〇
愛媛	株式会社住友製肥所	新居浜	四	三九、〇〇〇
全	大阪アルカリ肥料株式会社	川ノ石	一	八、〇〇〇
高知	土佐舎密株式会社	高知	二	六、〇〇〇
山口	大日本人造肥料株式会社	小野田	五	四六、〇〇〇
全	全	島	二	一七、〇〇〇
全	日本金屬株式会社	全	一	八、〇〇〇
福岡	三井鑛山株式会社	大年田	一	二〇、〇〇〇
全	八幡製鐵所	八幡	一	六、五〇〇
熊本	日本窒素肥料株式会社	鏡	四	三二、四〇〇
全	全	水俣	一	三、二四〇
宮崎	全	延岡	四	四八、〇〇〇
計			五	八七七、二〇〇

右ノ外陸軍省及海軍省所屬工場ニ於ケル硫酸製造設備ハ接觸式十組ヲ有ス
 以上ハ内地ニ於ケル硫酸製造工場ナルモ台湾・朝鮮及滿州ニ於ケル邦人經營ノ
 ノヲ記スレバ左ノ如シ

地方	會社名	所在地	組数	塔式	接觸式	日産能力
滿洲	南滿洲鐵道株式会社	撫順	四	一	一	二七、〇〇〇
台湾	台湾肥料株式会社	基隆	一	一	一	六、〇〇〇
朝鮮	三美製鐵所	釜山	一	一	一	五、〇〇〇

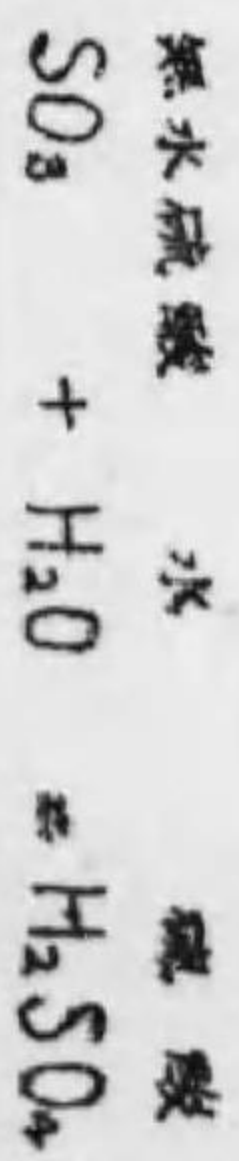
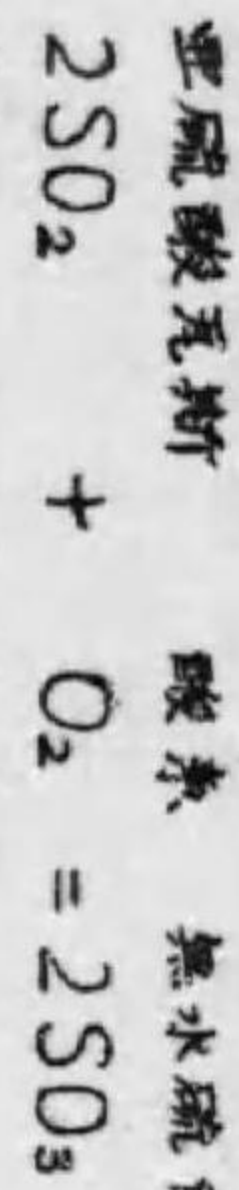
内地ニ於ケル硫酸製造装置、如シ
 而シテ内通煏酸石灰製造業者ノ有スル装置
 ハ鉛室六十一組塔式八組接觸式一組ニシテ装置總數ノ六割五分ヲ占メ硫酸生産能
 カニ於テモ約七割ヲ占ム

通煏酸製造業者	鉛室	塔式	接觸式	一日生産能力
他	六一	一	一	六一四、〇〇〇
共	二二	一	一	二六三、二〇〇

硫酸製造方法ノ概要

硫酸製造方式ハ種々アリト雖モ現今最モ普通ニ行ハルハ鉛室法ナリトス
 先ツ
 煏酸製造ニ於テハ硫磺ヲ投入煏燒シテ發生スル二氧化硫瓦斯ヲ粉塵沈殿用煙道ニ於テ鉄、
 砒素、豆鉛、鉛等ノ酸化物ノ大部分ヲ除去シ之ニ智利硝石ヲ濃硫酸ニテ處理シテ
 得ラル、硝酸瓦斯ト空氣トヲ混合シ「プロバ」塔ヲ經テ鉛室ニ至ラシム
 而シテ鉛

室ノ上部ヨリ撒布セラルル、水分ニ依リ稀硫酸即チ鉛室硫酸ヲ生成ス過磷酸石灰ニ使用スル硫酸之ナリ即チ



而シテ上式申、亞硫酸瓦斯力無水硫酸ニ酸化スルコトハ通常ノ状態ニ於テ不可能ナルカ故ニ此ノ変化ヲ促進セシムルガ爲メ硝酸瓦斯ヲ使用スルモノナリ尚硝酸瓦斯ノ使用ニ代フルニ白金ヲ觸媒トシテ使用スルコトアリ之即チ接觸法ニシテ塔式ト稱スルハ鉛室ニ代フルニ塔ヲ用フルノミニテ鉛室法ト大差ナシ

(ハ) 硫化礦ノ種類及生産額

亞硫酸瓦斯ヲ得ルニ用フル最モ適當ナルハ硫黄ニシテ古ハ殆ント焚燒ニ依レルモ硫黄ハ價格不廉ナルヲ以テ現今ニ在リテハ金屬ノ硫化物即チ硫化鐵ヲ使用スル硫化鐵ハ硫化鐵礦、黃銅礦ヲ主ナルモノトシ其他硫化亞鉛礦ヲ使用スル場合ナキニアラズ
硫化鐵ハ我國ニ於テハ産地ニ乏シカラズ産額モ亦豊富ニシテ年産額四十万噸ト推算セラルル産地出礦豫想高、硫化鐵ノ種類品質ニ付表記スレハ左ノ如シ

硫化鐵産出豫想高

(帝國人造調)

嶺山名	所在國名	礦種	硫黄含有量	一ヶ月出礦豫想高	嶺主	備考
土倉	近江	銅	40%	40,000	古川	
久根	遠江	銅	43%	120,000	三菱	
空	甲斐	銅	45%	400,000	久原	
須崎	伊豆	銅	40%	400,000	久原	
日立	常陸	銅	41%	800,000	久原	
飯盛	肥前	銅	43%	500,000	古川	
柗原	美作	銅	50%	200,000	藤田	
出石寺	伊豫	銅	40%	800,000	天野	
廣田	伊豫	銅	40%	500,000	久原	
千原	伊豫	銅	42%	100,000	中江	
白鹿	伊豫	銅	42%	500,000	久原	
別子	伊豫	銅	42%	1,200,000	住友	
高越	阿波	銅	43%	400,000	高田	
三總	阿波	銅	45%	300,000	橋本	
依々連	伊豫	銅	46%	270,000	岩城	
				八六九〇,〇〇〇		

年 三九〇,六〇〇

硫化鑛市價

(單位月) 對千貫

年	月	價	格	指	年	月	價	格	指
大正	六	二〇,〇〇〇		一〇〇	大正	六	六〇,〇〇〇		三〇〇
六	九	二〇,〇〇〇		一〇〇	一〇	九	六五,〇〇〇		三二五
七	三	二〇,〇〇〇		一〇〇	一	三	六五,〇〇〇		三二五
七	九	二〇,〇〇〇		一〇五	一	九	六五,〇〇〇		三二五
八	三	三二,〇〇〇		一六〇	一	三	五五,〇〇〇		二七五
八	九	四八,〇〇〇		二四〇	一	九	五〇,〇〇〇		二五〇
九	三	九四,〇〇〇		四七〇	一	三	六九,〇〇〇		三四五
九	九	九四,〇〇〇		四七〇	一	九	六六,〇〇〇		三五〇
一〇	三	六八,五〇〇		三四二	一	三	六三,〇〇〇		三一五
					一	九	六二,〇〇〇		三一〇

二、 硫酸ノ生産費
 過燐酸石灰ノ製造ニ使用スル硫酸ハ鉛室硫酸ト稱スルホ一ノレ五十度内外ノモノ
 ヲ使用ス而シテ之カ生産費ハ工場經營ノ如何、硫酸製造方式等ニ依リ相違スルモ
 鉛室法ニ依ルトキハ大様左ノ如クナルヘシ

鉛室硫酸十貫ノ原料費

費目別	數	量	單	價	金	額
硫化鑛		五、二六〇	千ソニ分	六二、五〇〇		三二八
智利硝石		〇、八〇	十ソニ分	四、五〇〇		〇三六
硫酸		一〇、四		六〇〇		〇〇六
計						三七〇

コノ外工場費固定資本利子、固定資本償却金等ヲ要シコノ金額ヲ假リニ硫酸十貫
 ニ付二十二錢四厘ヲ要スルモ、トセハ硫酸十貫ノ生産費ハ五十九錢四厘トナルヘシ

六、 過燐酸石灰製造會社ノ變遷

明治二十一年東京人造肥料株式會社創設以來今日迄過燐酸石灰製造會社ノ設立セ
 ラレタルモノ二十四社ノ多キニ及ビ其ノ間明治三十八年ヨリ全四十一年ニ至ル四
 ケ年間ニ十會社大正六年ヨリ大正九年ニ至ル四ケ年間ニ六會社ノ設立ヲ見タリ
 斯ノ如ク一時ノ好況ニ依リ多數會社ノ設立ヲ見タリト雖モ其ノ結果需要ハ生産ノ
 大ト伴ハス是競争ニ次クニ競争ヲ以テシ何レモ悲況ニ陥リ合併ニ合併ヲ重テ今日
 ニアリテハ十二社ヲ存スルニ至レリ

創業年 創立當時社名 合併又は組織変更年 現在社名



大正一二 合資會社グアノ製肥所

過燐酸石灰製造工場ハ東京大阪ノ如ク交通其他諸種ノ点ニ於テ便利多ク地ヲ選ルハ之ニ依リ明カニシテ新河富山ノ如キハ工場經營上必スシモ便利ナリトセスト

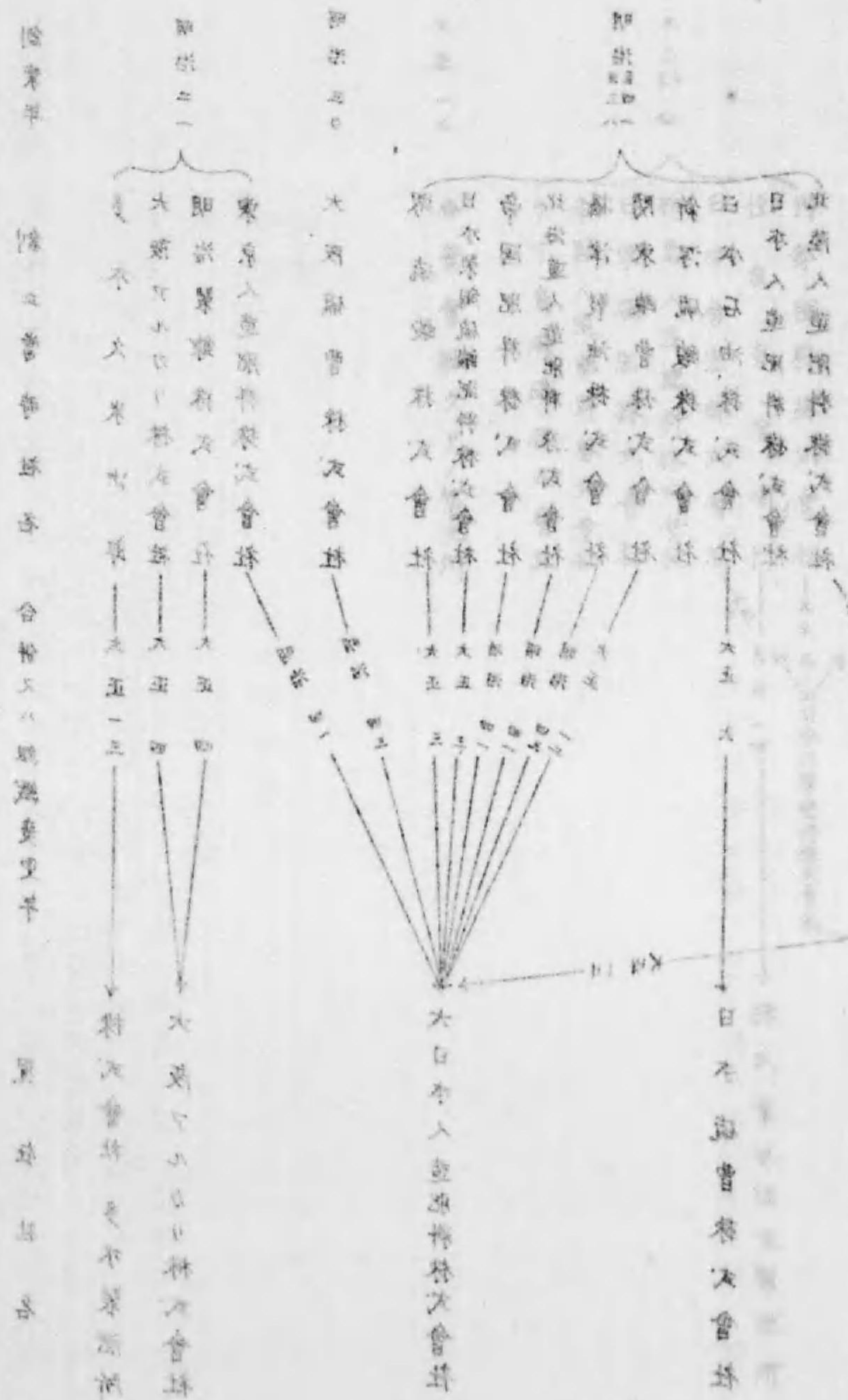
北 東 大 新 富 石 炭 兵 岡 愛 山
道 京 阪 河 山 川 知 庫 山 娘 口

一 五 六 二 一 一 一 二 二

地方別

工場数

七、過燐酸石灰製造工場ノ分布
凡テ肥料ノ需要ハ都市ヲ離レタル地方ニアルヲ以テ需要旺盛ナル地方ニ該工場ヲ設置スルヲ利便トスルカ如キ觀無キニアラスト雖モ工場ノ經營難易ハ諸種ノ條件ニ依リテ定マルノミナラス肥料ノ需要期ニ風土作物等ニ依リテ各異ナルヘキヲ以テ可及的廣ク各地方ヘノ交通便利ナル場處ニシテ工場ノ經營ニ関シ諸條件ニ適合スルノ地ヲ選フモノトス左ニ地方別工場ノ数ヲ示サン



既元硫油精製用硫酸ノ製造ヲ目的トシテ設置セラレタルモノニシテ後硫酸ノ農
分上過燐酸ノ製造装置ヲ増設シタルモノトス變壞性灰工場ノ如キハ煙害減少ノ目
的ヲ以テ硫酸製造ヲ企畫シ硫酸ノ農分トシテ過燐酸ヲ製造スルモノナリト

八、過燐酸石灰製造業者ノ現状

大正十四年度上半期ニ於ケル各社ノ決算ニ依リ綜合スルトキハ左ノ如シ(台湾ヲ含マ)

過燐酸石灰製造業者數	工場數	年生産能力
十二	二十三	百十七万壹千噸
		五千五百四十五万圓
		四千九百万九千圓
		三千百十三万九千七百圓
		百十七万四千八百五十圓
		六百十一万千二百二十八圓

(欠損)

(一) 資本金額
過燐酸石灰製造業者ハ現在十二社二十三工場ニシテ今十四年度上半期ニ於ケル各

會社ノ決算書ニ依リ資本金額ヲ計算スルトキハ五千五百四十五万圓ニシテ其ノ内
持込金額ハ四千九百万九千圓ナリトス

公稱資本金額	持込金額	株數	會社名
二二,四〇〇,〇〇〇	二二,四〇〇,〇〇〇	四四八,〇〇〇	大日本人造肥料株式會社
七,五〇〇,〇〇〇	五,五〇〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	ラサ島燐礦株式會社
二,〇〇〇,〇〇〇	一,七五〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	日東硫酸株式會社
一三,三五〇,〇〇〇	一三,二九四,〇〇〇	二六七,〇〇〇	大阪アルカリ株式會社
二,五〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	帝國人造肥料株式會社
一,〇〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	新浮人造肥料株式會社
五〇〇,〇〇〇	三一五,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	日本硫酸株式會社
一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	株式會社多木製肥所
三,〇〇〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	株式會社住友製肥所
五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	神島人造肥料株式會社
一,五〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	北陸人造肥料株式會社
二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	株式會社グアノ製肥所
五,五四五,〇〇〇	四,九〇〇,〇〇〇		

(二) 社債及借入金 (大正十四年上半期決算書ニ依ル)
 社債及借入金ノ総額ハ三千百十三万九千七百五圓ニシテ資本金拂込額ノ六四%ニ相
 當ス

社債	借入金	計	會社名
1,850,000	11,991,077	13,841,077	大日本人造肥料株式会社
	491,224	491,224	ラ寸島磷礦株式会社
	5,400,000	5,400,000	日東硫酸株式会社
	2,000,000	2,000,000	大阪アルカリ株式会社
	217,404	217,404	帝國人造肥料株式会社
	190,000	190,000	新浮硫酸肥料株式会社
			日本硫酸會社
			株式会社多水製肥所
			株式会社住友製肥所
			神島人造肥料株式会社
			北陸人造肥料株式会社
			株式会社グアノ製肥所
		31,159,705	計

(三) 過磷酸石灰生産能力

過磷酸石灰生産能力ハ硫酸生産能力、過磷酸製造ニ関スル設備、其他諸種ノ條件ニ依リテ相異スルヲ以テ的確ナル推定ハ甚ク困難ナリトスルモ今人造肥料聯合會其他ニ於テ調査シタル資料ニ基キ之カ推定ヲ下セハ左ノ如シ

過磷酸石灰日産能力推定見込額

地方別工場数	大日本人造	ラ寸島	多水	住友	アルカリ	帝人	日東硫酸	神島	北陸	日本硫酸	新浮	計
東京 五	173,300	276,000					300,000					2,400,000
大阪 六	755,000	700,000			367,000	297,000						2,000,000
山口 二	780,000											780,000
兵庫 一			858,000									858,000
愛媛 一				545,000								545,000
岡山 二	315,000							245,000				560,000
石川 一	280,000											280,000
北海道 一	210,000											210,000
愛知 一	175,000											175,000
新潟 二											105,000	175,000
富山 一												175,000
計	2,380,000	1,076,000	858,000	545,000	367,000	297,000	300,000	245,000	175,000	700,000	1,050,000	8,226,000

九 過燐酸石灰生産費

生産費ハ各社ノ秘密トスル所ニシテ的確ニ之ヲ知ルヲ得スト虽モ大抵左ノ如クナルヘシ

一、原料費

費目別	水溶一五%過燐酸石灰十貫ノ原料費	数量	單價	金額
低度燐礦		五、七〇〇	一七	四二二
硫酸		六、〇〇〇	二〇、〇〇〇	三六〇
繩ひ荷造費			十ノ	二六〇
計				一、〇四二

水溶一五%過燐酸石灰十貫ノ原料費

費目別	数量	單價	金額
クリスマス燐礦	四七〇〇	一七	五九五
アングウル燐礦	一、三〇〇	二七、五〇〇	一三二
硫酸	五、九五〇	六〇	三五六
繩ひ荷造費			二六〇
計			一、三一三

コノ外製造ニ要スル工場費ハ種々ノ事情ニ依リテ多少ノ相異アルヲ免レスト雖モ假リニ十貫ニ付十六銭ヲ要ストセハ普通過燐酸石灰ノ生産費八十貫ニ付一円二十銭ニ重トナリ強過燐酸石灰ノ生産費八十貫ニ付一円四十七銭三厘トナリ市價(大正十五年一月下旬頃)ト對比スルトキハ普通過燐酸石灰(市價一円六十銭)ニ於テ約四十銭強過燐酸(市價一円九十四銭)ニ於テ約四十七銭ノ差額ヲ有ス然レトモ右生産費ハ單ニ原料費ニ工場費ヲ見積加算シタルモノニシテコノ外固定資本利子 資本償却金 借入及社債利子等ヲ加算スルトキハ其ノ差ハ僅少ナルヘシ

一〇、過燐酸石灰製造業者ノ利益

過燐酸石灰ノ生産能力ハ実需額ノ二倍ニ達シ従テ同業者間ノ競争激烈ヲ極メ利益モ亦尠少ナリトス 偶々相當ノ利益ヲ擧ケツ、アルモノナキニアラスト雖モ是等ハ單ニ過燐酸ノ製造ニ止マラス化學工業藥品ノ製造ヲ兼營シ之ニ依リテ利益ヲ擧クルモノトセララル 左ニ各肥料會社ノ利益配當狀況ヲ表示スヘシ

過燐酸石灰製造會社ノ利益配當狀況

大正	二年	三年	戦前平均	大正四年	五年	六年	七年	八年	戦時平均	大正九年	十年	十一年	十二年	十三年	十一年	十三年	十四年	會社名
一、二〇	一、一〇	一、〇〇	一、〇六	一、八〇	一、二〇	一、六〇	一、六〇	一、七〇	一、三八	一、五〇	一、〇	一、六〇	一、五〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	大日本人造肥料株式會社

大正	一年	二年	三年	戰前	戰時	大正	四年	五年	六年	七年	八年	戰前	戰時	大正	九年	一〇年	一一年	一二年	一三年	一四年	社名
二五〇	一七五	一五〇	一三〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	ラサキ島嶼株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	日東硫酸株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	大阪アルカリ株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	帝國人造肥料株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	神島人造肥料株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	株式會社多木製糖所
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	日本硫酸株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	新子蔵肥料株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	北陸人造肥料株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	株式會社住友製糖所

過燐酸製造會社ト他ノ營利會社トノ利益配當ヲ比較スレハ左ノ如シ
 (過燐酸製造會社ハ總生産額並生産能力ノ半ハヲ有スル大日本人造肥料株式會社ヲ以テセリ)

過燐酸石灰製造會社ト他ノ營利會社トノ利益配當比較表

大正	一年	二年	三年	戰前	戰時	大正	四年	五年	六年	七年	八年	戰前	戰時	大正	九年	一〇年	一一年	一二年	一三年	一四年	社名
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	大日本人造肥料株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	大日本硫酸株式會社

一五〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	九州肥料株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	大日本製糖株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	明治製糖株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	日本石油株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	大日本製糖株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	帝國製糖株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	日本製糖株式會社
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	日本製糖株式會社

一、各製造業者ノ過燐酸石灰ノ販賣方法

(一) 大日本人造肥料株式會社
 製造シタル過燐酸石灰ノニ割ハ自由販賣(多クハ荷爲増)ニテハ割ハ特約販賣ト
 入特約ハマールク及販賣區域ヲ限定ス
 特約ノ場合ニハ各地方ニ賣シ組合ヲ作り一定ノ積立金ヲ積立セシメ此ノ組合員ニ
 對シテハ製品ヲ賣却ス共ノ取引ハ多ク荷爲増ナルモ場合ニ依リテハ積立金ノ範圍
 迄半期取引トナス
 製品ハ多ク工場渡トス

(一) 日東硫酸株式会社
製品ノ全部ハ自由販賣ニシテ市内營業者ニ對シテハ現金地方營業者ニ對シテハ荷
爲替付ナリ

(三) ラサ島燐礦株式会社
過燐酸石灰ハ全部自由販賣ニシテ市内營業者ニ對シテハ月ニ回計算地方營業者ニ
對シテハ荷爲替トス
又アレニ付テハ東京及大阪ニ「ア」組合(組合員ハ東京五名大阪約十名)ヲ組織
セシメ會社ハ製造シタル「ア」各組合員ニ賣却シ組合員ハ協定價格ヲ以テ之ヲ
他ニ轉賣ス 尚組合ニハ速約保證及宣傳等ノ爲メ積立金ヲ爲ス(積立金ハ「ア」組合員
三錢會社三錢)

(四) 大阪アルカリ株式会社

製品ハ自由販賣ニ割特約賣ハ割ニシテ販賣區域及「マ」ク「レ」ヲ特約ノ條件トス 現品ハ
主トシテ驛渡トス

(五) 帝國人造株式会社
大阪アルカリ株式会社ニ全シ

(六) 日本硫酸株式会社

主トシテ特約店制度ヲ採リ年々賣捌キ價格ニ應シ有價証券又ハ不動産担保ヲ差入
シメ担保ノ提供ナキモノニ付テハ現金又ハ荷爲替附トス

(七) 新浮硫酸株式会社

全部特約店制度ニシテ現金又ハ荷爲替附トス

(八) 株式会社住友製肥所

主トシテ特約販賣制度ナルモ官公衙農會 産業組合其他之ニ準スヘキモノヨリ註
文ヲ受ケタル場合ハ直接販賣ヲ爲スコトアリコノ場合ニ於テハ特約店ニ手数料ヲ
支拂フモノトス

(九) 株式会社多水製肥所

特約販賣制度ニシテ販賣區域ヲ限定ス 主トシテ現金ナルモ延取引ヲ爲スコト
アリコノ場合ハ六十日サイト取引トス

(一〇) 北陸人造肥料株式会社

特約販賣又ハ自由販賣ニ依リ荷爲替附、現金又ハサイト附販賣ヲ爲ス

(一一) 神島人造肥料株式会社

自由販賣ニシテ現金販賣ヲ原則トシ三十日乃至六十日ノガイドヲ以テ販賣スル場
合アリ

(三) 株式会社グアノ製肥所
販賣區域及ノークレヲ條件トスル特約販賣ニシテ主トシテ驛渡シトス

第一表 世界ニ於ケル燐礦石生産額

國別	一九一三年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
独逸	二一九四二〇	八八八四	六七六〇〇	六〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
白耳義	三五四八	二〇〇〇〇	六四九二	五三九七	一〇〇〇〇
佛蘭西	二九八八五九	一一〇八八〇	一三三五〇〇	七八〇〇〇	一〇〇〇〇
諸國	七五七	二〇〇〇	一四一四〇	二一〇五〇	二〇〇二〇
ソビエト聯邦	二五〇〇〇	四五八〇	一七一	二七	二〇〇二〇
加拿大	三四九	二七	一七二	二七	一〇〇〇〇
合衆國	三一六一一四六	二四五六六八〇	二四五六六八〇	三〇五四九五五	三二二七九八一
佛領ギアナ	三一九三				
葡領西印度	三四七七二	六〇八七二	六〇八七二	八五八五五	一〇〇〇〇
印度支那		九四〇〇	七六〇〇	九八四七	一二四六一
日本	一九〇四五	三三〇〇一	一三三三〇	三三、一〇七	九六〇八八
クリスマス島	一五、四一〇	八七、八八九	一〇〇、九四六	七一、五六三	一二七、一六六
アルゼリア	四六一、〇三〇	四〇二、八八四	四八九、二七七	四六七、三八四	六七、一五〇
埃及	一〇、四四五〇	一一、一七四	六〇、三二〇	二五、三七〇	八七、八六九
モロッコ		三三、〇〇〇	九六、三一七	二二五、三九五	四六一、〇〇〇
チユニス	二、一七〇、四九六	一、八二八、〇〇〇	一九五、八〇〇	二、三三八、〇〇〇	二、五九一、〇〇〇
海峽	六、〇四五	七、三五五	三、九五一	一、〇一六	
アンダール	九〇、〇〇〇	六二、七二〇	四六、二一七	六一、二六一	
マカテ	八二、〇五七	五九、五六六	七一、三五〇	七四、二三〇	八九、六一一

オーストリア	五五五六一六	三七〇、〇九六	三六七、〇〇一	四一九、九六一
ニュージーランド	一、一七六	六、一〇八	三、一七八	一、六〇〇
計	七一九九三六九	五七三九、一〇六	五九六一、九三六	六、九三三、六七一
				七、七四五、五七八

備考 (1) ハ輸出

(2) ハ其ノ年六月三十日ニ至ル貿易年度

右表中統計数字ヲ欲クトコロハソノ年以前ト變化ナキモノトシテ合計シタル推定数字ヲ示セハ

推定合計	七一九九三六九	五七三九、一〇六	五九六一、九三六	六、九四四、五五五	七、九六二、一六三
------	---------	----------	----------	-----------	-----------

第二表 世界ニ於ケル燐礦石ノ輸出額 (單位一〇、〇〇〇噸)

國別	一九一三年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
獨逸	六八八五	一、五四二	一、一七一	九	一七
白耳	一八一五八	四、五九一	一〇、四九五	一〇、六九〇	一一、〇六四
佛蘭	二、二四二	六、〇一六	一、五四五	四、六五二	五、九七三
英	一、八〇八	一	一	一	一
伊太	四、一七一	一	一	一	一
和蘭	一、六五〇	一	一	一	一
波蘭	一	七五	六七〇	二五〇	一、五七四

國別	一九一三年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
合衆國	一、五八八、四三六	七、四九〇、七九	七、三〇、八三七	八、四〇、八三一	八、三一、九一三
南亞細亞	五、四七二	六〇、八七二	五、六〇七、八	八、五、八三五	一〇、〇、四八一
クリスマス島	一、五二四、一〇	八、七、八九二	一〇〇、九四六	七、一五、六三	一、二七、一六六
アルゼリア	四、三六〇、一	五、七二、〇一九	五、二五、三九六	五、五、一、三六九	八〇〇、七四四
埃及	六、四一、八三	八、四、五九〇	一、八一、〇〇四	八、四、四九八	九、五、〇、四六
マダガスカル	一	一	一	一	一
モロッコ	一	八、一八一	七、九、七八一	一、九〇、五〇五	四、三〇、四四一
チリ	一、九八四、八八〇	一、四、五、五、三九	二、一、二、四、四一三	二、二、五、二、五七一	二、三、八、九、〇一六
南米	七、四三	三、九、四、六二	六、五、一	一	一
南米	一	一	一	一	一
マカサ	八、二〇、五七	五、九、五、六六	七、一、三、五二	一、三、六、五〇六	一、九、二、五、一六
ナウル	一	二、四〇、二二九	一九、六、七八三	七、四、二、三〇	八、九、六、一一
新西蘭	一	五、〇〇〇	五、一、四二	一	一
計	四、二〇、九、八九六	三、一、八〇、三一五	四、一、八三、二一四	四、三〇、三、五九〇	五、二、七、七、一五六

備考 (1) General Trade

(2) ハ五月ヨリ十二月マテノ数字ナリ

(3) ハ其ノ年六月三十日ニ至ル貿易年度

右ノ表中統計数字ノ欠クルトコロハソノ年以前(以前ノ数字ナキモノハ以後)ト變化ナキモノトシテ合計シタル推定数字ヲ示セハ

推定合計	四、二〇、九、八九六	三、三、三、二、七八三	四、一、八三、二一四	四、五〇、六、二八六	五、二、七、七、一五六
------	------------	-------------	------------	------------	-------------

第三表 世界ニ於ケル燐礦石ノ輸入額

(單位 1000噸)

國別	一九一三年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
獨逸	九二八七九八	二七六五一六	三七九、五九八	二一八、八四一	二七一、二九七
澳州	二〇三、〇二八		九六八	五四三五	五、三九七
白耳義	二四四、七六七		一、五二、四四九	二二八、〇四六	二、四四八五
丁牙林	五五、八七五		一〇六、三九三	一一八、九四三	一一六、〇九〇
西牙	二五、四四六五		二四六、七〇九	三八〇、六七九	
仲蘭	九四〇、七九一		一、一六九、三四九	一、三二五、七九九	一、三二九、七六六
英太	五、四七、六六六		三七七、三二一	三三五、六五二	三四八、一四七
伊太	五、二九、七七六		五五五、五三六	六七八、八一五	八一、五五八
諾威			八〇、三八	三、一九七	五、六五五
和蘭	八四、〇四八		一〇三、三七八	一七一、五三〇	二二、三七六六
波蘭			二、九八七	四八六	二七八、九五四
羅馬尼亞			一、四一六	一五	八六、八一九
瑞典	一、二五、二五〇		七〇、二二四	一五	二七、八一九
チエツコ、スロバキア			四、五、三九三	七、二九〇	一〇、六六七三
ソビエト聯邦	五、五、五七六		一、一、七〇〇	一六〇、九九	一一、九〇六
加拿大			一、五、九六〇	七、二九一	一、五、三五七
南亞利加聯邦	三三、二八八		二、一、二四〇	二、八、〇九〇	一、五、六六五
日本	六八九		七、五、一八	一、五、五三七	二八、一〇、三五
南亞利加聯邦	一六、二、五九元	(1)	二、四、一、六二五	四、一、六、五、四〇二	一、九、九四四
南亞利加聯邦		(2)	四、五、六一元	五〇、二、五、六	二、三、八、六、四六
南亞利加聯邦		(3)	四、四、四、五、五	五、七、九、二、七、九、五	八〇、〇、四、六
計	四、四、六、二、一、三、九	五、一、四、四、五、五、三	三七、九、二、七、九、五	四、一、五、六、八、一、二	四、三、三、六、〇、〇、一

備考

※ ハ 澳州利漢手利合計数字ナリ
 一) GENERAL TRADE
 二) 燐礦石灰ノ含ム
 三) 其ノ年ノ六月ニ至ル貿易年度

右ノ表中統計数字ノ欠クルトコロハ其ノ年以前ノ数字ナキモノハ以テ(一)以前ノ数字ナキモノハ以テ(二)変化ナキモノトシテ
 合計シタル推定数字ヲ示セハ

推定合計

四、四、六、二、一、三、九	五、一、四、四、五、五、三	五、七、九、二、七、九、五	四、一、五、六、八、一、二	四、三、三、六、〇、〇、一
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

第四表 世界ニ於ケル燐礦石灰生産額

(單位 1000噸)

國別	一九一三年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
獨逸	一、八一、八七〇〇	四、五〇、〇〇〇	六、三、一、〇〇〇	五、七、四、九、八三	五、八、三、六、九七
白耳義	四、五〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	二〇、二、五〇五	
丁牙林	九〇、〇〇〇	八四、二九五	一、七、二、一一九	六〇、八、八三〇	
西牙	二、二五、〇〇〇	五、四、二、一二七	四、六、一、五五一	六、二、一、五、一三六	六、三、〇、三、七、八三
仲蘭	一、九二〇、〇〇〇	一、四〇、四、一、五、六	二、一、三、二、八、三八	六、二、一、五、一三六	六、三、〇、三、七、八三
英太	八二〇、〇〇〇	五、八、八、〇〇〇	五、三、一、三、九、五	三、九、四、三、二、六	四、三、八、九、三、二
伊太	九七、六、三、一、七	八、五〇、〇〇〇	八、八〇、〇〇〇	一、一〇、〇、〇、〇、〇	一、五、四、〇、〇、〇、〇

計	日 本	合 計	加 拿 大	ソ ビ エ ト 聯 邦	瑞 典	瑞 士	波 蘭	和 蘭
一、一〇、六八、六一六	四、五、一三、八六八	三、二、四、八、〇〇〇	一、五、八、三、〇〇〇	一、九、六、一、七二	一、九、六、一、七二	三、四、六、〇、〇〇	一、九、六、一、七二	一、九、六、一、七二
八、二、三、二、九四	五、五、四、〇、五〇	三、一、六、〇、三六四	二、八、九、八	一、三、三、五、三四	一、〇、〇、〇、〇〇	五、四、八、七、五	一、九、五、六、六〇	五、四、八、七、五
八、八、四、九、〇一四	五、一、一、四、七三	二、五、二、九、四二〇	二、五、二、八〇	一、二、五、五、七四	九、八、五、〇、〇	五、〇、六、九、九七	六、六、三、六、一	六、六、三、六、一
九、八、三、一、四四〇	五、〇、六、九、九八	三、〇、五、四、六、九一	二、〇、七、九	一、五、五、二、〇三	一、〇、〇、〇、〇〇	三、八、〇、〇、五八	九、八、九、三、八	九、八、九、三、八
八、七、〇、七、五九	九、三、六	四、一、四、四、七、一五八	二、〇、九、八、八	一、〇、〇、〇、〇〇	一、〇、〇、〇、〇〇	四、八、二、〇、〇〇	八、八、九、三、八	八、八、九、三、八

備考

(一) ハ 愛蘭ヲ含マズ
 (二) ハ 七月以後ヲ含マズ
 (三) ハ 一九一四年、数字ヲ示ス

右表中統計数字、欠クルトコロハ其ノ年以前、数字ヲ示シ、以後ト變化ナキモノトシテ
 合計ニシテ推定数字ヲ示セハ

推定合計	一、一〇、六八、六一六	八、二、三、二、九四	八、八、四、九、〇一四	九、八、三、一、四四〇	八、七、〇、七、五九
------	-------------	------------	-------------	-------------	------------

第五表 世界ニ於ケル過燐酸石灰ノ輸出額

(単位一〇〇〇噸)

國別	一九一三年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
獨逸	二八、二、六五三	(一) 五、五、七五	一三、八、八六	一八、一、〇七	二二、六、〇一
澳州	三、七、四八	一	三〇	一	二五
白耳義	三一、八、九二二	二〇、三、七〇五	二六、九、四七一	二六、六、一六七	二五、〇、一四〇
丁株	六八三	一一、三、二八	二六一	八四八九	一四、九、〇五
エストニア	一	一	一	一四、一、〇六	一四、六、三九
佛蘭西	一四、五、二二八	六、三、三二四	七、七、〇、四三	一三、〇、〇〇〇	二二、八、四三〇
英吉利	六、四、四九九	三、五、二二	六、〇、七七	一、二、四一〇	二六、〇、六六
英吉利	一	一	一	七、〇、五五	一九、九、五二
伊太利	一	一	一	三、二、六三	五
諾威	一	八、八、二、六	一、一、九二	七、〇、五五	一九、九、五二
和蘭	三五、二、八四九	九、六、二、六二	三、二、六三	二、八、〇、八八三	三、二、一、三、五四
波蘭	一	六三	一、八、六、七八一	八、六、九、五	一、三、〇、三四
羅馬尼亞	八六一	一	三、二、九五〇	八、六、九、五	一、三、〇、三四
瑞典	五、六、〇、三七	一八、五、八二	二、〇、二一〇	三、四、一、〇八	六、二、五、四〇
チエツコスロバキヤ	一	一	一	一〇、一、九六	六、二、七、五
合衆國	一	四、三、四七	一	四、三、七、七五	四、六、四、八五
アルゼンチナ	八、〇、〇六	二、五、五六	一、七、九、二五	一、八、二、八五	二、四、〇、一一
チリ	一、三、四、五	一	一〇、一、三	一	一
ペルー	一三、〇、八八	二、四、〇、二二	一、三、五、七	五〇、九	九、三、六
新西蘭	一	一	一	一	一
計	一、一〇、六八、六一六	八、二、三、二、九四	八、八、四、九、〇一四	九、八、三、一、四四〇	八、七、〇、七、五九

備考

- (一) ハ 漢米利洪牙利合計数
- (二) ハ 五月ヨリ十二月マテノ数字
- (三) ハ 英ノ年六月末日ニ至ル貿易年度

右表中統計数字ヲ改ケタル処ハ英ノ年以前(以前ノ数字ナキモノハ以後)ト変化ナキモノトシテ
合計シタル推定数字ヲ示セハ

推定合計

推定合計	一、二二七、九一九	四七五、六七四	六九一、六三六	八六〇、三二一	一、〇三九、九三二
------	-----------	---------	---------	---------	-----------

第六表 世界ニ於ケル過燐酸石灰ノ輸入額 (單位一〇〇〇噸)

國別	一九一三年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
獨逸	五三、一九三	二六、八二四	五五、三四〇	一〇、八二二	一八、四九〇
澳太	七五、二二四	四四、九二	一、八一	一五、七四〇	二八、四四〇
白耳義	二八〇、一	八五、七二	五三、九五二	三二、九二九	五一、六二二
丁耳	一一九、一五一	五〇、九六八	八一、四八六	一〇、一〇四六	一一、二二二
西班	一五〇、二五五	七七、八六九	六〇、九八八	九六、九二二	一一、二二二
エストニア		二、九二一	八、八三三	二、九四一	八、八四一
佛蘭西	一〇〇、八二二	五九、六六七	五九、一五一	六六、六九七	三〇、七八三
伊太利			二、五三五	一四、一五三	二、一四八
レツトニイ		五、六九四	六、四六一	一九、七九八	二八、一六〇

國別	一九一三年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年
諸國	四三、九三三	三五、五二二	一四、四二〇	二四、五二五	二九、五三〇
和蘭	二七〇、三七八	五七〇、六六三	一一七、四九七	八〇、八六九	七五、六九三
瑞典	三二、六〇	二五、〇六一	一〇、二七七	六、七四九	四、五四二
ソビエト	一九六、八五九	四一、六六三	一一、二六九	八、三一八	一三、一九八
ソビエト	九〇、二	一、六四一	三、七五一	二、三三五	四、九六四
加茶	一八一、六四	一、四〇一	一四、一六七	八二	三七、四八八
アルゼリ	一五、一四八	三、五七一	一〇、六六二	一六、三四〇	二二、五三五
マカリ	八五、二	一、二四六	六、九七	二、二五二	四、三一四
チユニス	三七一、八六	五、九五五	六、三一一	四、三八一	三、八九〇
南亞	二七、一三六	一〇、三五三	一、二七五	二、一七四	三、八九〇
海太利	九、九九四	一〇、二	五三	二、五九	六四
新西蘭	一、一〇、一〇一七	三九七、八五五	五一九、二五八	五四九、七〇六	五八六、八三四
計	一、一〇、一〇一七	三九七、八五五	五一九、二五八	五四九、七〇六	五八六、八三四

備考

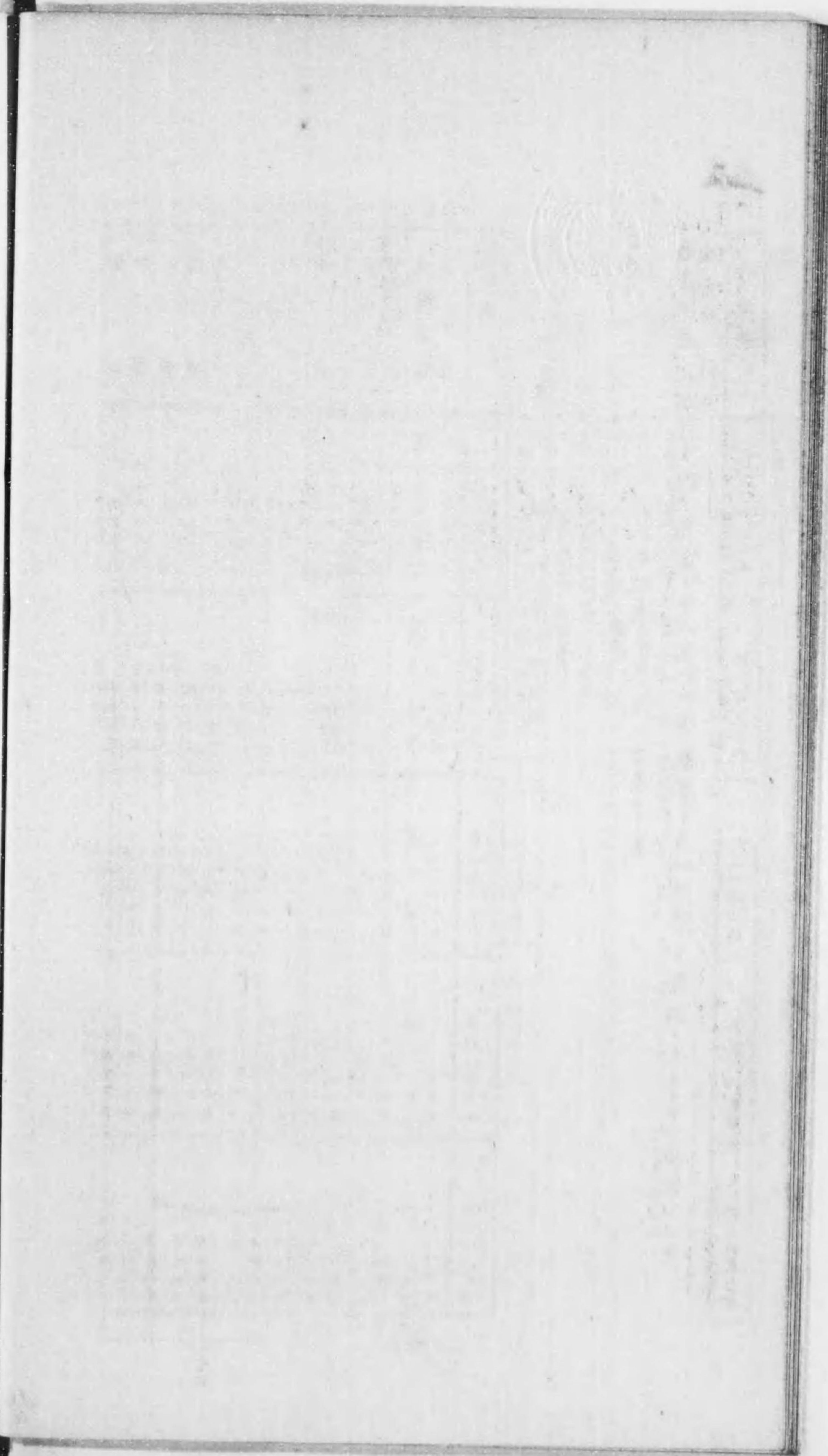
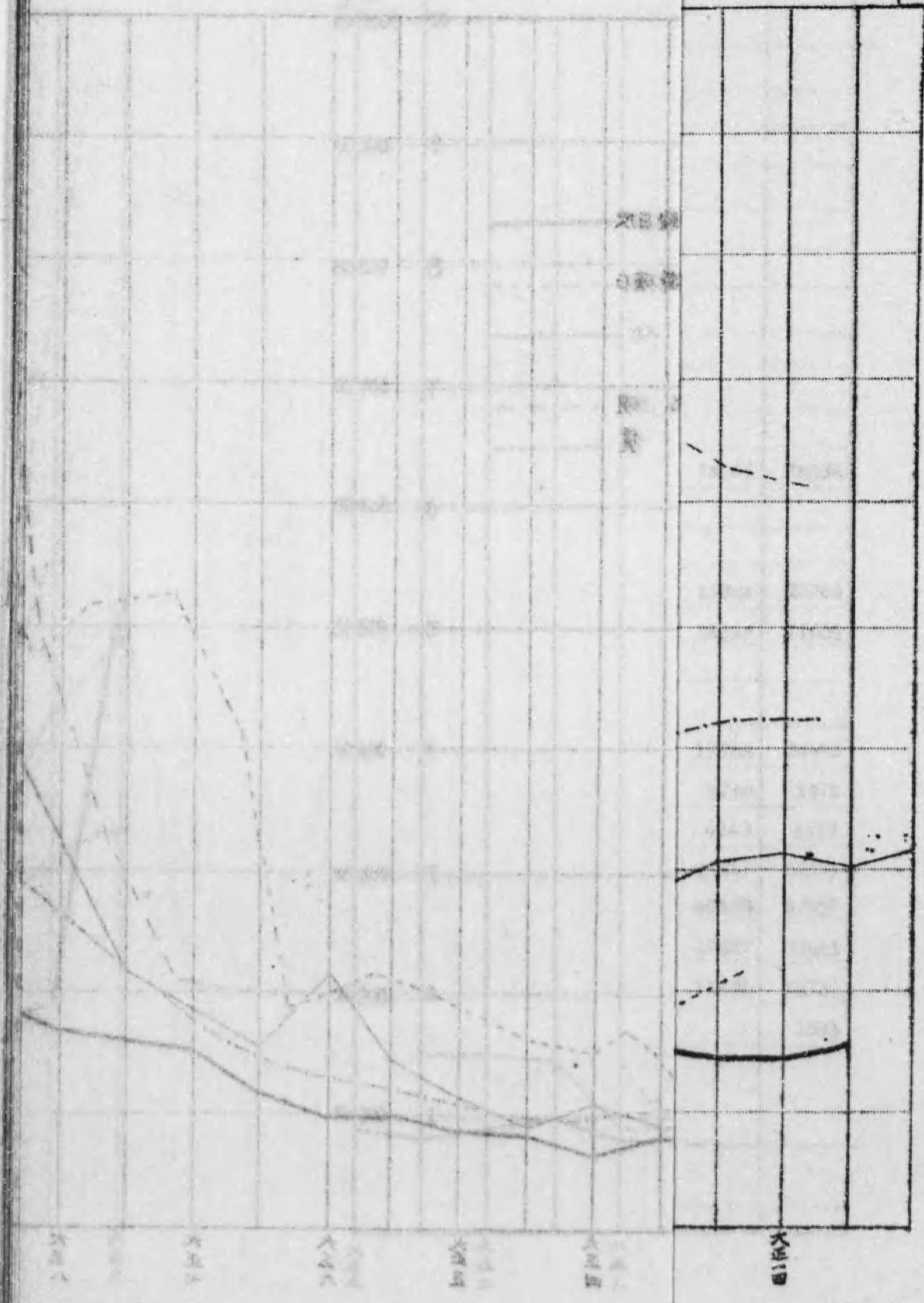
- (一) ハ 漢米利洪牙利合計数
- (二) ハ GENERAL TRADE
- (三) ハ BASIC SLAG
- (四) ハ 英ノ年六月三十日ニ至ル貿易年度

右表中統計数字ヲ改ケタル処ハ英ノ年以前(以前ノ数字ナキモノハ以後)ト変化ナキモノトシテ合計シタル
推定数字ヲ示セハ

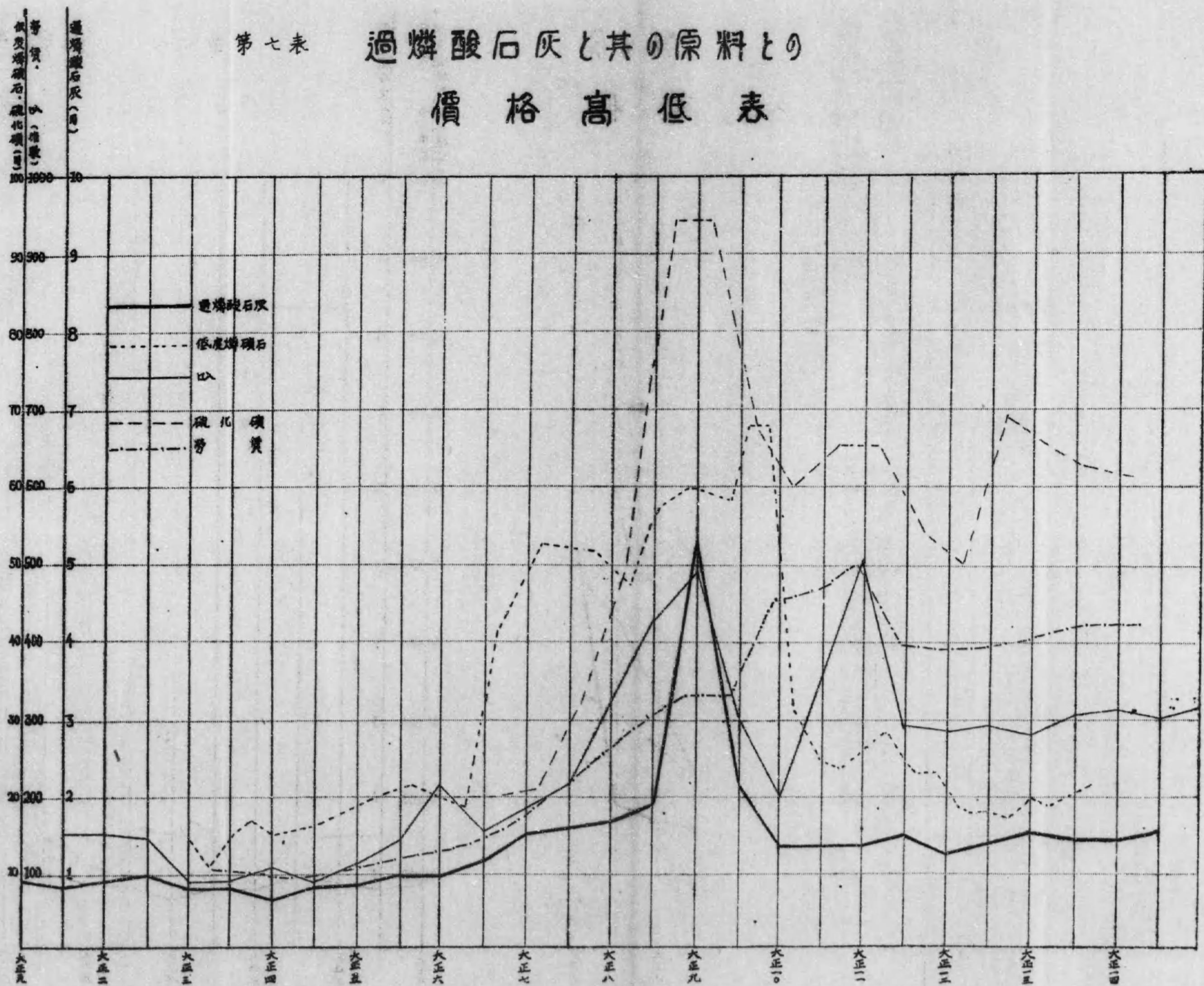
推定合計

推定合計	一、一〇、一〇一七	四〇、三五八	五二、一四〇六	五五、一八五四	六八、八九〇五
------	-----------	--------	---------	---------	---------

其 爲 天 司 籍 微 儀 未 十 年
 高 鉢 節



第七表 過燐酸石灰と其の原料との
價格高低表



第八表 過燐酸石灰製造ニ関スル一覽表

會社名	製造方式		生産額(電力)		過燐酸石灰		資本金			社債及 借入金	積立金		繰越金	配当率			生産額		
	製造方式	日産	年産	日産	年産	金額	株式	持分金額	別途		法定	大正 11		12	13	大正 11	12	13	
	日産	年産	日産	年産	金額	株式	持分金額	別途	法定	大正 11	12	13	大正 11	12	13				
大日本人造					410,000	530,000	2,240,000	448,000	2,240,000	11,300,000	330,000	245,000	279,165.71	.6	1.0	.8		193,518	234,106
小松川	3	1	55,000	44,000	60,000	81,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
王子	3	1	70,000	94,600	100,000	126,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水戸川	3	-	22,000	25,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大隈	3	-	-	16,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大和田	2	1	-	27,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水戸川	2	-	22,000	23,000	79,000	92,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小野田	5	-	40,000	52,000	40,000	52,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
多島	-	2	18,000	24,000	40,000	52,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小中	1	1	-	27,000	42,000	56,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
名古屋	1	1	17,000	22,000	25,000	33,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五箇	2	-	22,000	29,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
七尾	2	-	22,000	29,000	34,000	38,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヲ甘島燐礦					111,000	144,000	7,500,000	150,000	5,750,000	114,910,753	220,000	220,000	500,550.00	-	-	.5		74,945	78,396
東京	3	-	27,000	35,000	40,000	48,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪	7	-	52,000	69,000	71,000	96,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日東燐肥	2	-	24,000	27,000	43,000	48,000	2,000,000	400,000	1,750,000	491,223.69	-	-	353,682.17	-	-	-		15,838	22,269
大阪アルカリ					55,000	74,000	13,350,000	267,000	12,294,000	7,250,000	-	-	600,000,000	-	-	-		16,199	11,686
大野	4	-	31,000	43,000	55,000	74,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川之石	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
帝國人造	2	-	24,000	32,000	40,000	58,000	2,500,000	50,000	1,500,000	200,000	-	1,100	38,846.00	-	-	-		19,708	26,493
新澤燐礦	3	-	17,000	24,000	18,500	18,000	1,000,000	20,000	700,000	217,404	18,950	178,600	633,800	.8	.4	1.0		6,348	5,975
日本燐膏	2	-	10,000	13,000	5,000	11,000	500,000	10,000	315,000	190,000	-	10,000	30,000.00	-	-	-		4,943	6,077
多木燐肥	5	-	50,000	68,000	93,000	125,000	1,000,000	20,000	1,000,000	-	-	100,000	398,673.00	-	1.4	1.3		4,786	66,331
佐友燐肥	4	1	39,000	52,000	50,000	70,000	3,000,000	60,000	180,000	-	-	-	-	-	-	-		4,048	69,957
神島人造	2	-	17,000	22,000	-	32,000	500,000	10,000	500,000	-	5,000	5,000	314,423	-	1.5	2.0		2,282	32,483
北陸人造	1	1	10,000	14,000	18,000	22,000	1,500,000	30,000	1,000,000	-	31,000	252,000	802,349	.8	1.0	1.2		17,436	16,721
グマノ燐肥	-	-	-	-	33,000	44,000	200,000	4,000	200,000	-	-	-	230,000	-	-	-		-	2,083
計					1,171,000	554,500	55,450,000	1,100,000	4,909,000	51,139,705.22	422,350	751,900	842,554.04	-	-	-		-	695,368.17

調査肥料ニ関スル調査

水質

調査年度	調査地				調査回数
	1	2	3	4	
昭和14年	10451	27000	36000	47822	120
昭和15年	12000	10100	24450	18251	280
昭和16年	22428	3249	3718	3210	18
昭和17年	20142	12084	21622	22281	22
昭和18年	17112	22202	24420	21702	22
昭和19年	19200	1212	46428	22421	22
昭和20年	44221	61240	80422	22422	280
昭和21年	22222	22200	28128	62224	220
昭和22年	22222	22222	22222	22222	220

調合肥料ニ関スル調査

目次

一	調合肥料ノ沿革	一
二	調合肥料ノ生産	一
三	調合肥料ノ貿易	三
四	調合肥料ノ消費	三
五	調合肥料ノ種類	五
六	調合肥料ノ製造原料	七
七	調合肥料ノ價格	八
八	調合肥料製造業者ノ現状	二

附

第一表	各府縣別調合肥料製造業者	一三
第二表	肥料製造原料消費額	一五

一、調合肥料ノ沿革

明治十八年頃農商技師高峰博士ハ米國ヨリ「キア」レストン燐礦及過燐酸石灰ヲ持歸リ該過燐酸石灰ヲ製造ノ上コレヲ有機質肥料ト調合シテ各府縣ニ試用セシメタリコレ我國ニ於ケル調合肥料使用ノ嚆矢ナリ
試用ノ結果成績意外ニ見ルヘキモノアリシヲ以テコレヲ實用スルモノ漸次増加シ又一方化學工業ノ発達ト共ニソノ原料タル過燐酸石灰・硫酸安母尼亞等ハソノ供給者シク潤沢トナリシヲ以テ種々ノ調合肥料ヲ創製販賣スルモノ漸次増加シ今ヤ調合肥料ノ製造ハ肥料界ノ重要ナル部分ヲ占ムルニ至レリ

二、調合肥料ノ生産

内地ニ於ケル調合肥料ノ生産ハ年ニ依リ多少ノ消長アルヲ免レスト雖モ逐年増加ノ趨勢ヲ辿リツ、アリ 即チ最近三ヶ年平均生産額ハ三千六万圓（九千五百萬圓）ニシテ販賣肥料生産總額ノ二割二分強ヲ占メ之レヲ明治三十六年ヨリ全四十年ニ至ル五ヶ年平均生産額五百三十九万圓ニ比スルトキハ約六倍ノ増加ヲ示セリ 今調合肥料ノ生産額ヲ年別ニ示セハ次ノ如シ

内地ニ於ケル調合肥料ノ生産

年次	数量	價格	增加指數	肥料生産總額
明治三十四年	三六、四五四〇九二	五、三九三、五六四	一〇〇、〇	二、三、一
明治三十五年	四四、七三四六七二	九、一二二、三九八	一六九、一	三、一、三
明治三十六年	五五、四〇〇、一八〇	九、六一八、六三二	一七八、三	三、二、五
明治三十七年	六三、二一六、二三八	一、一六四、一七四	二二五、五	三、五、一
明治三十八年	六三、二一六、二三八	一、四三〇、八九八	二六五、三	三、五、二
明治三十九年	六三、二一六、二三八	一、六八六、五二六	三一七、七	三、二、八
明治四十年	六三、二一六、二三八	一、九一二、五九二	三二四、一	三、三、一
明治四十一年	六三、二一六、二三八	一、七四八、一四七	三二四、一	三、一、〇
明治四十二年	六三、二一六、二三八	一、二二五、一〇二	二二六、七	二、四、七
明治四十三年	六三、二一六、二三八	一、二八九、五七五	二二九、一	二、一、一
明治四十四年	六三、二一六、二三八	一、七九六、〇六九	三三三、〇	二、〇、七
明治四十五年	六三、二一六、二三八	二、六五二、六一九	四九一、八	二、〇、四
明治四十六年	六三、二一六、二三八	四、九〇三、二四四	九〇九、〇	二、四、〇
明治四十七年	六三、二一六、二三八	三、四五六、四〇五	六四〇、八	二、〇、〇
明治四十八年	六三、二一六、二三八	二、二四二、〇七三	四一五、七	二、〇、八
明治四十九年	六三、二一六、二三八	二、四二五、六二一	四四九、七	二、〇、二
明治五十年	六三、二一六、二三八	二、九七六、〇四五	五五一、七	二、一、四
明治五十一年	六三、二一六、二三八	三、六七一、〇六二	六七〇、六	二、二、四
明治五十二年	六三、二一六、二三八	三、〇六三、九一〇	五五七、四	二、二、一
最近三ヶ年平均	九〇、〇五一、七六五			

三、調合肥料ノ貿易

調合肥料ノ最近ニ於ケル輸出入ハ殆ントナク又ソノ移入ナルモ、モノモ見ス移出額ハ最近三ヶ年平均四百六十四万貫其ノ價格ニ百六万圓ニシテ悉ク台湾ニ仕向ケラル。今之ヲ年別ニ示セハ次ノ如シ

年次	数量	價格	備考
大正九年	七、〇六四、〇六一	五、二七八、七四七	
大正十年	四、九七八、八〇九	二、四三九、六四六	
大正十一年	五、一九二、一六八	二、三五九、五〇六	
大正十二年	三、一八三、八九八	一、四四八、八二五	
大正十三年	五、五三一、八六七	二、三八九、三三三	
最近三ヶ年平均	四、六三五、九七八	二、〇六五、八八八	

四、調合肥料ノ消費

調合肥料ノ内地ニ於ケル消費額ヲ正確ニ定ムルハ頗ル困難ナリト雖モ今假ニ内地ニ於ケル生産額ニ輸移入額ヲ加ヘ輸移出額ヲ減シタル殘額ヲ以テ其ノ消費額ト見做ストキハ最近三ヶ年平均消費額ニ千八百七万圓ニシテ内地ニ於ケル販賣肥料消

費総額ノ一割ニ分弱ヲ占メ之レテ明治三十六年ヨリ全四十年ニ至ル十箇年平均ニ比スルニ五倍以上ノ激増ヲ示セリ而シテ明治四十一年以來ノ消費状況ヲ見ルニ漸次増加ノ趨勢ニ向ヒツ、アルモ尙年ニ依リ着シキ消長アリ 即チ明治四十一年ヨリ大正六年迄ハ大ナル変化ナク大正七年頃ヨリ急ニ増加シ大正八年最高ニ達シソノ後一兩年激減セルモ近時亦増加ノ傾向ヲ示シツ、アリ
今年別消費額ヲ示セハ次ノ如シ

内地ニ於ケル調合肥料ノ消費

年次	消費額	増加指数	消費額増減率	備考
自明治三十六年五ヶ年平均	五四〇	一〇〇・〇	一三・〇%	
明治四十一年	九〇三	一六七・二	一五・四	
・四十二年	九六二	一七八・一	一七・六	
・四十三年	一二一六	二二五・二	一九・九	
・四十四年	一四三一	二六五・〇	一八・七	
大正元年	一五七二	二九一・一	一七・八	
・二年	一七五四	三二四・八	一六・四	
・三年	一五七二	二九一・一	一五・六	
・四年	九三八	一七三・七	一一・九	

五. 調合肥料ノ種類

調合肥料ノソノ原料ノ種類及其ノ配合ノ割合等ニ依リソノ性質一様ナラズト雖モソノ主ナルモノニ付キソノ成分割合及生産額ヲ見ルニ

年次	消費額	増加指数	消費額増減率
五五年	九五一	一七六・〇	一・〇%
・六六年	一三五五	二五〇・九	一〇・五
・七七年	二二九五	四二五・七	一一・三
・八八年	四六四八	八六〇・七	一四・七
・九九年	三〇〇六	五五六・七	八・八
・一〇年	一九九八	三七〇・〇	一〇・一
・一一年	二二六七	四一九・八	一〇・〇
・一二年	二七七六	五一四・一	一一・二
・一三年	三三七九	六二五・七	一四・〇
最近三ヶ年平均	二、八〇七	五一九・八	一一・七

保証	成分	生産額	調合肥料製造割合%
窒素	加量	一、九八二七、三八八	一八・〇
五——六	二——四		

窒素質肥料

- 植物質 大豆粕 菜種油粕 綿実油粕 植物雜油粕 其他油粕及諸油類
- 礦物質 硫酸安母尼亞 智利硝石

動物質 骨粉

磷酸質肥料

- 植物質 米糠
- 礦物質 過磷酸石灰 溶餅グアノ

加里質肥料 礦物質 硫酸加里

以上ノ内消費額最大ナルハ過磷酸石灰ノ五千二百八十七万貫(六百七十九万圓)ニシテ硫酸安母尼亞ノ二千二百五十三万貫(一千五百十九万圓)之ニ次キ魚肥類油粕類粉木、米糠等亦相當ノ額ニ達ス

七、調合肥料ノ價格

調合肥料ノ價格ハ諸種ノ事情ニ依リ變化スルモノナルヲ以テ一概ニ論スルコト能ハスト雖モ今生産額最も多キ所謂五號配合肥料ニツキ大正元年ヨリ全十三年ニ至ル十三ヶ年間ノ價額ヲ見ルニ大体原料ノ價格ニ伴ヒ騰落アリ 即チ大正五年ハ最低ヲ示シ後急ニ騰貴シテ大正九年最高ニ達シ後亦稍低落セリ而シテ最モ低落セシ

ハ大正四年一月及全五年一月ニシテソノ十貫取價格僅カニ二圓廿三錢、最モ騰貴セシハ大正九年四月ニシテ九圓八十五錢ヲ示シ實ニ兩者ノ間ニハ七圓六十錢余ノ間キアリ
又米價ニ比シ最モ廉ナリシハ大正十三年ニシテ米一石ハ調合肥料一、九貫ニ相當シ最モ高カリシハ大正四年ニシテ米一石ハ僅カニ五十五貫ニ相當スルニ過キス

調合肥料ノ價格

年次	月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
大正	元年	二、四六	二、四六	二、四七	二、四六	二、四八	二、五〇	二、四九	二、五一	二、四九	二、四八	二、五〇	二、四八	二、四八
全	二年	二、五二	二、五四	二、五六	二、五五	二、五四	二、五二	二、五二	二、五二	二、四八	二、四二	二、五一	二、四七	二、五一
全	三年	二、四五	二、四四	二、四五	二、四一	二、四二	二、四四	二、四三	二、三九	二、四四	二、四〇	二、三七	二、三三	二、四一
全	四年	二、二二	二、三一	二、三六	二、四〇	二、四九	二、五九	二、四二	二、三九	二、四二	二、三九	二、三八	二、四四	二、三八
全	五年	二、二二	二、三一	二、三六	二、四〇	二、四九	二、五九	二、四二	二、三九	二、四二	二、三九	二、三八	二、四四	二、三八
全	六年	三、一三	三、一四	三、一七	三、一八	三、一五	三、一五	三、一八	三、一八	三、一四	三、一四	三、一八	三、一四	三、一七
全	七年	四、七八	四、八一	四、八五	四、八七	五、一一	五、一〇	五、三〇	五、三二	五、四六	五、二八	五、二一	五、一七	五、一〇
全	八年	四、八九	四、九五	四、九七	五、〇三	五、〇五	五、〇一	五、〇五	五、〇五	五、〇六	五、六三	五、六一	五、七七	五、二〇
全	九年	七、一一	八、一二	八、七九	九、八五	六、九〇	七、九四	五、一三	五、〇二	五、〇一	四、六六	三、八五	三、八〇	六、五五
全	十年	三、五六	三、四五	三、三八	三、二二	三、五四	三、四七	三、一八	三、一二	三、一七	三、二二	三、二九	三、三九	三、三五
全	十一年	三、四二	三、一七	三、一八	三、一四	三、九〇	二、九一	三、〇九	三、四八	三、五八	三、三一	三、三五	三、二四	三、三二
全	十二年	三、一八	三、四八	三、六二	三、七四	三、八六	三、九一	三、八五	三、四一	三、三一	三、二一	三、一八	三、一三	三、五〇

全	十三年	三、一八	三、二七	三、三三	三、五五	三、五〇	三、二九	三、〇四	三、〇四	三、一四	三、二五	三、二九	三、二九	三、三二
最近三年平均														

備考 本表ハ窒素五、燐酸一二、割合ニ調合セラレタルモノ、兵庫縣ニ於ケル原價ヲ示シタルモノナリ
 調合肥料及其他ノ販賣肥料ノ價格

年次	調合肥料(十貫)	大豆油粕(一俵)	硫安(十貫)	普通過燐酸(十貫)	米 (一石)
大正元年	二、四八	一、五九	五、八〇	一、二〇	二、〇九六
二年	二、五八	一、五九	五、六六	一、一五	二、一三三
三年	二、四一	一、五二	五、一五	一、〇四	一、六一五
四年	二、三八	一、二六	五、八三	一、〇一	一、三〇七
五年	二、三六	一、四三	七、三六	一、二一	一、三七六
六年	二、七九	一、九四	一、一三七	一、四一	一、九七六
七年	五、一〇	二、五七	一、四三三	一、七六	三、二七五
八年	五、二〇	三、一六	一、二五一	二、二八	四、五九九
九年	六、三五	三、六五	一、〇二八	三、三二	四、四六三
十年	三、三五	二、一四	五、八三	一、六一	三、〇七九
十一年	三、二二	二、三二	六、六三	一、五三	三、五一二
十二年	三、五〇	二、二〇	七、二五	一、六一	三、二六二
十三年	三、二二	二、五三	六、二八	一、七三	三、八四二

最近三年平均	三、三二	二、三五	六、七二	一、六二	三、五、三八
--------	------	------	------	------	--------

備考 表中調合肥料ハ窒素五、六、燐酸二、二、四ナル調合ヲナスモノ、價格ナリ

調合肥料及其他ノ販賣肥料ノ價格指數

年次	調合肥料(十貫)	大豆油粕(一俵)	硫安(十貫)	普通過燐酸(十貫)	米 (一石)
大正元年	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇
二年	一〇〇、四	一〇一、三	一〇四、七	一〇六、二	一〇七、六
三年	九七、六	九六、八	九三、〇	九二、〇	八二、八
四年	九六、四	八〇、二	一一五、二	八九、四	六七、一
五年	九五、五	九一、一	一三二、八	一〇七、一	七〇、七
六年	一一二、九	一二三、六	二〇五、二	一二七、四	一〇一、五
七年	二〇六、五	一六三、七	二五九、九	一五六、六	一六八、二
八年	二一〇、五	二〇一、三	二二五、八	二〇一、八	二五六、二
九年	二五七、一	二二二、五	一八五、六	二九三、八	二二九、二
十年	一三五、六	一三六、三	一〇五、二	一四三、五	一五八、一
十一年	一三〇、六	一四七、八	一一九、七	一三五、四	一八〇、四
十二年	一四一、七	一四〇、一	一三〇、九	一四三、五	一六七、五

全	十三年	一三〇、八	一六一、一	一三三、四	一五三、一	一九七、三
最近三ヶ年平均		一三四、四	一四九、七	一三一、五	一四三、四	一八一、七

備考 前表備考参照

八、調合肥料製造業者ノ現状

調合肥料製造業者中、年額二千圓以上ノ生産ヲ舉ゲタルモノニ付最近調査シタルニ個人經營者二百四十五、法人ニ依ル經營百廿七、合計三百七十二アリテソノ資本金總額八個人二百七十三萬六千圓、法人八千三百六十九萬三千圓ニ達ス。但シ法人ノ資本金額中既ニ拂込済トナレルハ共ノ約二割八分即チ二千二百十三萬八千圓ニ過キサルヲ以テ結局調合肥料製造業者ノ資本金運用總額八千三百八十七萬四千圓ニシテソノ一營業者當平均年額八個人一萬一千餘圓、法人十六萬六千餘圓ナリ是等調合肥料製造業者ノ最近一ヶ年ノ生産額八個人五百九十六萬三千圓、法人一千三百九十九萬二千圓、合計一千九百九十五萬五千圓ニシテ一營業者當平均生産能力個人ニ萬四千圓、法人十一萬圓ノ割合ナリ

但シ過磷酸製造業者ニシテ調合肥料製造ヲナスモノハ之ヲ省ク

第一表 各府縣別調合肥料製造業者調 (生産額二千圓以上)

府縣名	資本金額	最近一ヶ年	個人	法人	個人	法人	個人	法人	計	
									生産額	資本金額
北海道	2,000,000	22,000,000	2	2	2	2	1,000,000	1,000,000	2	2
岩手	1,000,000	1,000,000	1	1	1	1	1,000,000	1,000,000	1	1
宮城	1,000,000	1,000,000	1	1	1	1	1,000,000	1,000,000	1	1
秋田	1,000,000	1,000,000	1	1	1	1	1,000,000	1,000,000	1	1
山形	1,000,000	1,000,000	1	1	1	1	1,000,000	1,000,000	1	1
福島	5,500,000	5,500,000	1	1	1	1	5,500,000	5,500,000	1	1
茨城	3,800,000	3,800,000	1	1	1	1	3,800,000	3,800,000	1	1
栃木	1,600,000	1,600,000	1	1	1	1	1,600,000	1,600,000	1	1
群馬	7,100,000	7,100,000	1	1	1	1	7,100,000	7,100,000	1	1
埼玉	9,200,000	9,200,000	1	1	1	1	9,200,000	9,200,000	1	1
千葉	1,700,000	1,700,000	1	1	1	1	1,700,000	1,700,000	1	1
東京	5,400,000	5,400,000	1	1	1	1	5,400,000	5,400,000	1	1
神奈川	3,500,000	3,500,000	1	1	1	1	3,500,000	3,500,000	1	1
新潟	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
富山	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
石川	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
福井	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
山梨	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
長野	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
岐阜	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
静岡	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
愛知	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
三重	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
滋賀	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
京都	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
大阪	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
奈良	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
和歌山	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
徳島	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
香川	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
高松	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
愛媛	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
高知	1,500,000	1,500,000	1	1	1	1	1,500,000	1,500,000	1	1
合計	50,000,000	50,000,000	100	100	100	100	50,000,000	50,000,000	100	100

計	青森	岩手	宮城	大津	長野	信濃	福井	高知	愛媛	香川	徳島	山梨	廣島	岡山	鳥取	島根	和歌山	奈良	兵庫	大阪	京都	滋賀
計	2,455	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755	2,755
...

備考「X」印ノ階セルモノハ生産額不明ニツキ生産数量ニ大正十三年ニ於ケル割合肥料全国平均價格(貴州三二八錢ヲ以テシ)算定セルモノナリ

第二表 肥料製造原料消費額調 (大正十三年)

品名	数量	價額
練搾粉	15,100.7	7,911.1
練搾粉	1,627.6	91.5
...

(二) 植物質

名称	数量	價額
大豆油粕	二,一五九,〇三七	一,一七三,七七一
浸出大豆油粕	四六〇,二九三	一,一七二,八八四
大豆油粕	六,七六九,三八四	二,三〇七,一四九
菜種油粕	四,八九一,五六六	一,八五六,三九四
全粉	五七〇,〇七五	二〇五,五九九
全粉	一一,一一〇,八〇	四一,七,五〇八
胡麻油粕	七,八三,七五	二六,八〇〇
全粉	一,三七,一三三	五〇,三〇七
在油	一,五四〇,五四	五五,六八八
全粉	一,一六,五三	六,二八八
再製菜種油粕	六,一八,五一	二,一五,一五
植物油粕	一,四一,二四八	三,三三,三七五
再製植物油粕	一,五三,五三	五,〇三,二二

名称	数量	價額
干盤及盤粕	八八六二	二,八八二
帆立貝	三三,二七七	一,二,八五八
骨炭及骨炭末	五八,九八〇	一四,九九三
動物質豆素肥料	二五,六三一五	九一,二〇六
計	一八,五八七,〇九四	七,五〇,七四八七

名称	数量	價額
小鼻粕	二,八三〇八	一,六,七四九
雜魚粕	二,七四一三	一〇,〇〇,九九五
魚油	一,六〇九	六,七六
魚油	一,八八五五	一,一,一〇
魚油	一,四九,九四八	一,〇〇,九〇
魚油	一,六〇〇	九,〇〇
魚油	五三五	二,〇〇
魚油	二,一五六	九〇〇
魚油	一,四三,〇二二	八五,八六五
魚油	二,七九三	一,二,七二
魚油	七,五九,〇六〇	五〇,四,一四
魚油	一,二六,五六三	九〇,三五四
魚油	五,四〇,一七九	一,九,一七六
魚油	一,二二〇,二八四	五,二六,〇〇三
魚油	一,五九,六一八	五,七,五〇〇
魚油	一,六四,九一五	九,九,六五〇
魚油	二〇,九四,二六	九,四,五九四
魚油	四〇,五四	二,二〇五
魚油	五,五六,四二八	一,四,一,九五
魚油	六,五八,五二	二,五,二〇〇
魚油	一,一,三八二	四,四,〇〇
魚油	二,八四,六〇	六,九,四九
魚油	一〇,四,五七三	二,五,五六三
魚油	五,三一六	一,四,九〇一
魚油	五,五,五三八	一,五,四,一一
魚油	五,一,五三六	九,〇〇

(三) 礦物質

名	数	價	額
通海酸石灰	五二、八七五、一七一	六、七八八、六四三	三、一八〇、〇〇〇
硫酸アンモニア	二、五三三、二六八	一、五〇一、五七七	三、八〇〇、〇〇〇
石灰	二七、九四六、五五三	一〇、一五九、四三三	二、八〇〇、〇〇〇
硫酸	六、九九六、五五三	一〇、三九九、五三三	七〇〇、〇〇〇
洋灰副生加石	四、七〇一、〇〇〇	一、四一〇、〇〇〇	六、六〇〇、〇〇〇
智利硝石	七、八五六、八一	一、一八七、七〇〇	九、二〇〇、〇〇〇
塩化加里	四、一五七、七五	一、五七六、三三六	六、五〇〇、〇〇〇

名	数	價	額
規率油	六、〇六〇	七、五八	四五、〇〇〇
咖啡油	九、六〇一	一、六五二	一五、八〇〇
カラメル油	一、九一八	二、七九	五、三〇〇
ホップ油	一、〇六八	一、四〇	一、四〇〇
又油	五、五〇〇	七、七	四、二二五
醬油油及粉水	六、一六四	六、六八六	四、〇七五
黍油	二、二二五	五、四	一、二一三
粟油	五、一三七、九三	四、六二七	二、三九〇
赤良漬油	三、五〇〇	二、四	八、五〇〇
豆油	三、五〇〇	二、四	八、五〇〇
凍豆腐油	一、〇〇五	三、〇三	三、〇三〇
計	五九、一六七、九一五	一、六九五、三五六	九、八〇〇、〇〇〇

椰子油	五〇、八四二、八	一、四、八九五	七、一三〇、〇〇〇
豆油	五、六二一、四	一、八、二九三	一〇、〇〇〇、〇〇〇
花生油	三、五〇〇	一、五八	五、四〇〇、〇〇〇
其ノ他油	一、〇〇九、一六四	三、九、六九六	三、八〇〇、〇〇〇
内 芥子油	三、五七、九二八	六、〇七〇	二、一五〇、〇〇〇
芥子油	二、一、五六四	一、三、三〇八	二、八〇〇、〇〇〇
芥子油	三、九、五三三	一、七	六、六〇〇、〇〇〇
芥子油	四、七	八、五八一	四、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	二、六、八〇〇	七、八九三	一、八〇〇、〇〇〇
芥子油	五、二、一四六	二、五三	一、二〇〇、〇〇〇
芥子油	一、一、二六六	三、九三九	四、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	二、五、五七一	一、七、七二四、三四	四、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	一、三、九七六、八四〇	一、七、七〇	二、四〇〇、〇〇〇
芥子油	一〇、三、九六	三、二	三、三〇〇、〇〇〇
芥子油	三、四、六〇、一三七	二、六〇、三四六	一、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	一、七、九〇〇	二、七、一七	四、七〇〇、〇〇〇
芥子油	一、三、七、九九	九、三、七七	一、二〇〇、〇〇〇
芥子油	四、一、六一〇	五、三、五八	一、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	一〇、二、九三、七七三	一、三、五、九九三	一、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	四〇、五、一一	五、〇、六九	二、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	一、五、五、九九八	二、二、五、一三	一、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	一、一、五、三四六	一、三、〇、八八	一、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	一、一、五、八〇	二、八、五、三四	一、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	四、三、二〇〇	一、八、六三	一、〇〇〇、〇〇〇
芥子油	二、三、七、六	二、三、七、六	一、〇〇〇、〇〇〇

品名	数量	単価	金額
加里他	二五八六二七	六五、〇六四	一六、五〇六四
木炭	二〇三、一四三〇	二六五、八一九	五三、八一九
燐酸アムモニア	六〇〇	九九	五九、四〇〇
海神アア	一、三、八〇二	一一、七三六	一五、八〇二
産芥灰肥料	一、九六三、一五二	二四〇、二五四	四七二、七五四
燐酸アムモニア	一、二〇〇	五〇〇	六〇〇
燐酸アムモニア	四七〇	三九二	一八六、四四〇
燐酸アムモニア	三、八四六	一、〇三二	三、九六八
燐酸アムモニア	三、六一〇	八八四	二、七三六
加里肥料	三、一五七〇	一〇、二二一	三二、二二一
特許肥料	二、三八〇	六九五	二、三九三
燐石	七四、九三九、九一二	九一、七四、六四八	六、八四八
燐石	一八二、五三三、〇八二	四三、二六三、二三三	七、九三三

品名	数量	単価	金額
魚粉	五、四二〇	八、五七一	四六、三九二
雜魚粉	九七、二六〇	一九、八八〇	一、九一八、八〇〇
混合肥料	五五、六〇六	八、三六五	四、六五五
人糞	二、一三〇	二一三	四五三
計	二、一八四、八七	五、六〇三、九	一、二三、〇三九

總計

二六〇、五一五、五七八

六七、七四〇、一〇五

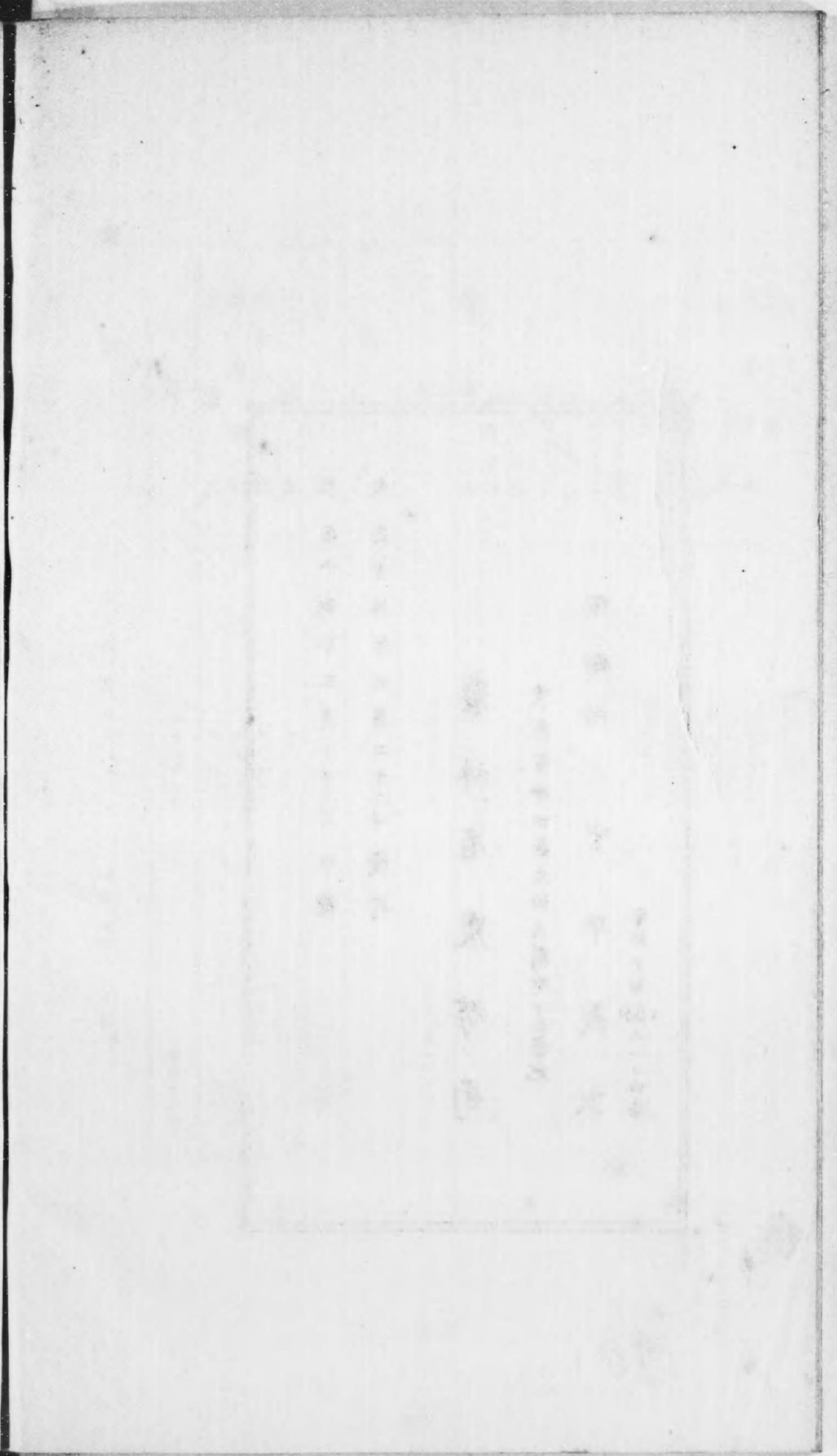
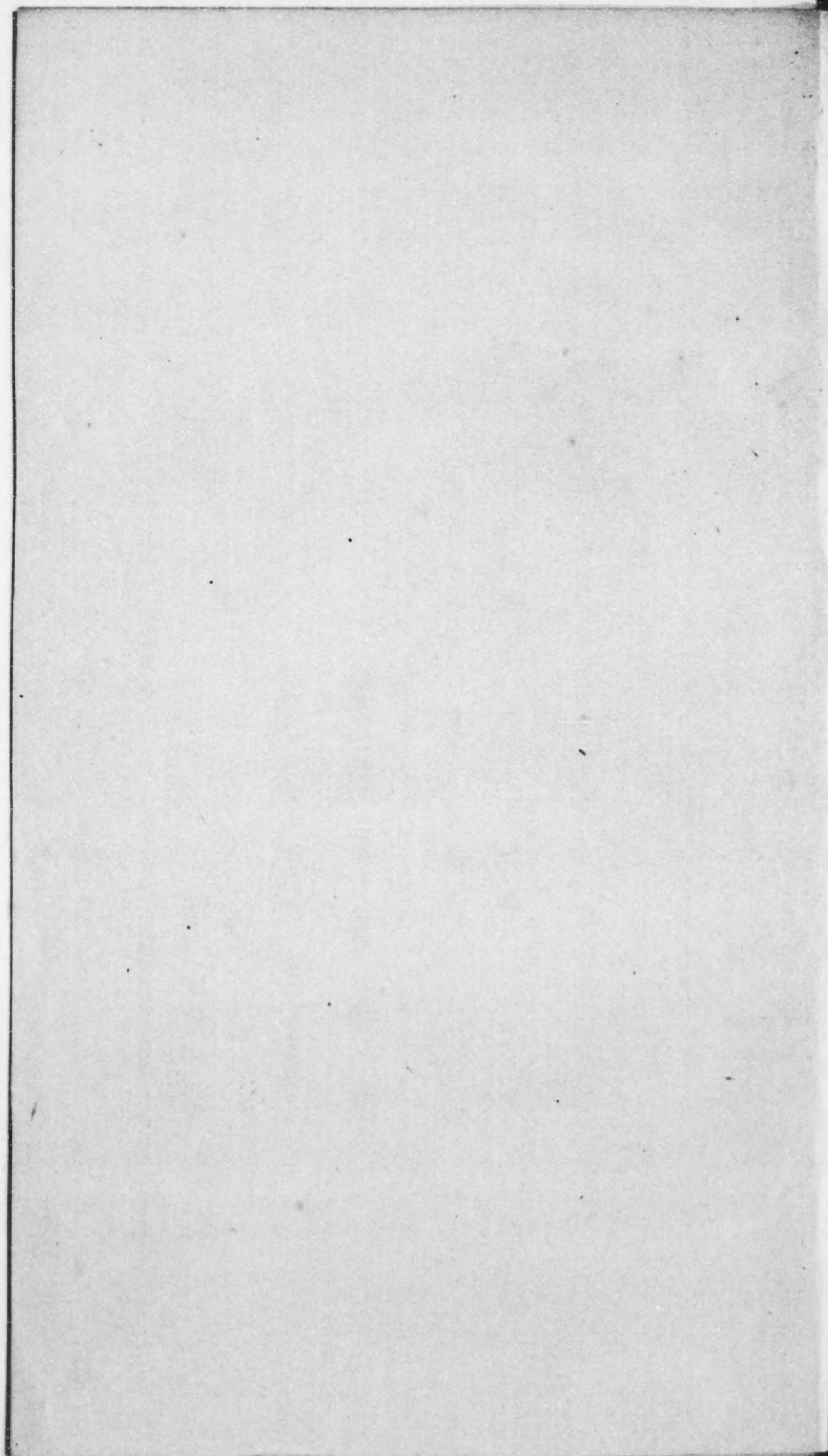
大正十五年三月二十日印刷
大正十五年三月二十二日發行

農林省農務局

東京市神田區元佐久間町十三番地

印刷所 中平義次

電話下谷 (83) 二一〇四番



524
322

終